



新町誕生20周年記念事業

共に描く 森町のこれから

私の未来、私達の未来、森町の未来

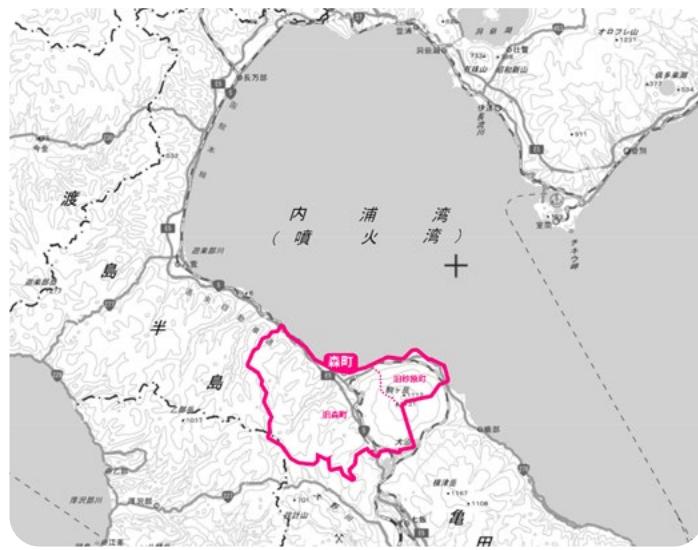
事業実施報告書 2025年11月15日 武蔵野美術大学

新町誕生20周年記念事業

共に描く 森町のこれから

私の未来、私達の未来、森町の未来

事業実施報告書 2025年11月15日 武蔵野美術大学



第一部 総括

1. 本事業の全体像

1-1 本事業の背景 4

1-2 本事業の趣旨と構成 5

2. 本事業の実施状況

2-1 一般町民対象のワークショップ「100人スケッチ」 6

2-2 中学生対象のワークショップ「フォトオブザベーション」 8

2-3 「森町のこれまで」のリサーチ 10

2-4 展覧会「みんなの森町展」とマルシェ「森町市場」 10

2-5 フォーラム「森町のこれまでとこれからを話し合おう」 17

3. 本事業に対する評価

3-1 「フォトオブザベーション」に対する評価 19

3-2 「みんなの森町展（含マルシェ）」に対する評価 27

3-3 フォーラム「森町のこれまでとこれからを話し合おう」に対する評価 30

第二部「みんなの森町展」で展示したパネルの内容 32

1. 本事業の全体像

1-1 本事業の背景

武蔵野美術大学(以下、「MAU」)は、2021年に森町と「地域連携に関する協定」を締結し、以来、毎年、複数の学生が1ヶ月間ほど森町に暮らし、フィールドワークの中で得た知見をもとに、森町の魅力や課題解決のためのデザインを構想するプログラムを実施してきた。このプログラムで森町に滞在した学生達は、その後、何度も森町を再訪するようになり、中には卒業後に移住する学生達も出てきた。2022年以後、既に4人の卒業生が森町や函館に移住し、仕事を得て暮らしている(うち一人は森町役場職員、2人は森町の地域おこし協力隊員)。

株式会社日本総合研究所(以下、「JRI」)は、2022年11月にMAUと「自律協生社会の実現」をテーマとする共同研究契約を締結。共同研究拠点としてMAU市ヶ谷キャンパスに「自律協生スタジオ(通称コンヴィヴィ)」を開設し、両者の研究活動を進めることとなった。その研究フィールドの一つに森町を設定し、2022年11月以後、原則、毎月、森町を訪ね、研究・実践を重ねている。

MAUとJRIが掲げる自律協生社会(コンヴィヴィアル・ソサイエティ)とは、人が他の存在と力を合わせる中で実現する、共に生きる喜びに満ちた、生き生きとした社会のことを指す。自律協生社会において個は自由で創造的になり、その持てる能力を十全に發揮する。他者や自然やテクノロジーの力を借りることで、自分一人ではできなかつたことが可能になり、個と全体がその本領を發揮する。それが自律協生社会が思い描く社会像である。

このような社会にシフトするための条件と方法を探るべく、MAUとJRIはフィールドワークを重ね、多くの森町市民と対話してきた。また、そうして知り合った人達と宴を定期的に開催することで、今まで関わりのなかった人々をつなぎながら緩やかなコミュニティを醸成してきた。「オニウシ変態解放区」(以下、「解放区」)と名付けられたそのコミュニティは、職種も世代も性別もバラバラだが、つながりの中で新たな仕事が生まれたり、仕事に好影響をもたらすイノベーションが生まれたり、後ろ向きだった人が新しい挑戦を始めたり、といったことが起きている。自律協生社会の前提是、個の自律・主体性の發揮にあるが、解放区は、メンバーの自律・主体の発揮を促しつつ、協生を生み出す場として機能し始めているのである。その意味で、

期せずして、解放区は自律協生の場となったと言えよう。当初から解放区に積極的に参加してこられてきた岡嶋町長も、その息吹に触れる中で、自律協生こそが、これから森町には必要と唱えるようになり、先の町長選挙でも、「自律協生」を公約に掲げられたという経緯がある。

1-2 本事業の趣旨と構成

自律協生の町づくりは、トップダウンではなく、市民の自律的・主体的な協働の取組みをベースに、ボトムアップで進められるべきものである。とは言え、ほとんどの人は町に対して自分が何かできるとも、したいとも思っておらず、町民発の取組み、自律協生の町づくりの契機は乏しい。勿論、誰だって自分の仕事や暮らしを良いものにしたい、心豊かに、喜びに満ちた人生を送りたいとは思っている。ただ、それを町づくりに結びつけて考える発想や手立てがないのである。行政が掲げる都市計画や町のビジョンは、ほとんどの人にとっては縁遠いものに映る。ワークショップや検討委員会、パブリックコメントなどを通じた町民参加も、その多くは形式的なものに留まり、町民が本当の意味で参加するものにはなれていない。このため、町づくりや町の運営、行政の意思決定に関して、自分達が関与し、参加できているという感覚、自分達の声が届き、意思決定に影響を与えていたという実感をほとんどの町民が持ち得ていないというのが実状である。

このような状況の中で自律協生の町づくりを進めるには、まず何よりも、町民が町づくりや行政の意思決定に、関与し、参加できているという感覚、自分達の声が届き、意思決定に影響を与えていたという実感を持つ必要があると考えた。また、その前提として、町民一人ひとりが町の歴史や現状を知り、未来に思いを馳せる機会を持つことが重要と考えた。さらに、以上のことは、大人だけではなく、未来を担う子ども達も対象に含めるべきだろうと考えた。

以上の考え方に基づき、本事業では、大きく分けて、①町民を対象にしたワークショップ、②森町の過去と現状に関するリサーチ、③ワークショップの成果とリサーチ結果を町民向けに発表する展覧会、④森町の豊かさを体感してもらうためのマルシェ、⑤森町のこれまでとこれからを町長と共に考えるフォーラム、の5つで構成することとした。

ワークショップは、一般町民を対象にしたものと中学生を対象にしたものとの2系統を実施した。一般町民を対象としたものは、将来の夢や願いや望みを絵に描くワークショップである。職業・年齢・性別の異なる100人に声をかけ、10年後の自分のありたい姿を考え、絵に描いた上で、語ってもらった。「100人スケッチ」と名付けたこのワークショップは、たくさんの「私の未来」を集めれば、集合無意識的に「私たちの未来」があぶり出され、「森町の未来」に対する示唆を得ることができるのでないかという仮説に基づき行ったものである。

中学生は、森中学と砂原中学の2年生、約100名を対象にした。生徒達に森町の好きな風景や気になるシーンを写真に撮ってもらい、タイトルをつけて皆で語り合う「フォトオブザベーション」と呼ばれるワークショップを体験してもらった。これは、子ども以上、大人未満の目で切り取られた「森町の今」を見つめることを通じて、町の魅力を発見・認識するための作業である。

リサーチは、主に「森町のこれまで」を探索した。地形や自然や気候、文化や生業や社会がどう変化してきたかを調べ、森町にはどんな人がどんなふうに生きてきたのかを理解することに努めた。

以上を通じて得られた「森町のこれまで」と「森町の今」、さらに「私の未来」を通じて見えてくる「私たちの未来」と「森町の未来」、これらを展覧会形式で展示し、広く市民に見てもらうこととした。また、展覧会に併せて、森町の豊かさを体感してもらうために、農林漁業者による一次産品や加工品の直売、森町のクリエイターによる作品販売やステージイベントを行うことで、「森町の今」の豊かさを体感できるようにした。

以上に加え、「森町のこれまで」と「森町のこれから」を考えるためのフォーラムも開催した。このフォーラムでは、MAUとJRIが森町で実践してきた研究の内容と成果を報告した上で、町長と中学生との対話を通じて、「森町のこれから」を考えた。

2. 本事業の実施状況

2-1 一般町民対象のワークショップ「100人スケッチ」

10年後の自分を思い描き、その周囲にその時の自分のそばにある事物や風景、人を描くということを基本ルールに、多様な町民にスケッチを描いてもらった（図1）。絵を描いてもらった後は、一人ひとり説明してもらう。互いの未来予想図を聞くのは楽しく、ワークショップは終始和やかに進める事ができた。各人の語りはテキストで記録した。

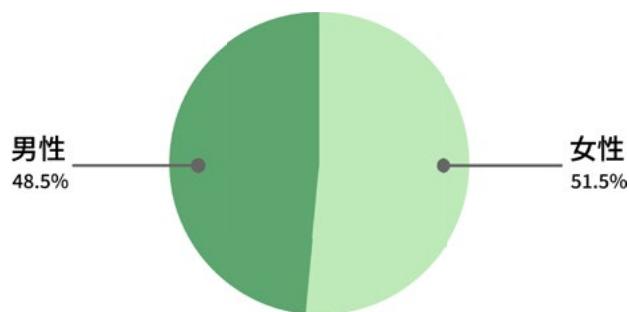
ワークショップは、5月16日から7月16日までの3ヶ月間の間に、24回に分けて行い、計101人の方に参加頂いた。10代から80代まで、職業も性別も多様な人々がワークショップに参加してくれたため（図2）、実に多様な「私の未来」が集まる結果となった（図3）。

一人ひとりの「私の未来」を100人分集めた時に、集合無意識的に「私たちの未来」が浮かび上がってくるのではないかという仮説を持っていたが、実際に出来上がってきたスケッチを並べて眺めてみると未来に対する望みや願いは意外とシンプルで、今の延長で、健康でお金に困らず、趣味の仲間や友達に囲まれて、今よりも自由に、より楽しく生きていけたら良いというあたりに収斂することがわかった。絵を描いてみたいとか音楽活動をしてみたいとか、表現活動への思いが意外と多くの方に共通して見られたのも興味深かった。また、多くの人が駒ヶ岳を絵に描き入れていたのも印象的であった。駒ヶ岳はそれだけ町民にとって身近で大切な存在ということなのだろう。多くの町民にとって、森町に生きるということは、駒ヶ岳と共に生きることということと同義なのかも知れない。

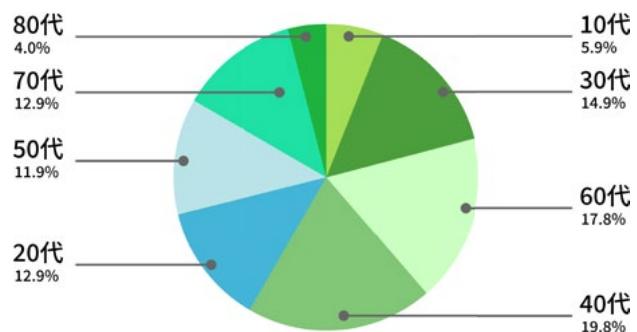
各人のスケッチと語りから「私の未来」の要素を抽出し、

似たようなものをまとめて関連づけてみたものが図4である。これは「私の未来」から浮かび上がってきた「私たちの未来」と言える。この「私たちの未来」は、「森町の未来」に対する人々の希望や願いと言って良いだろう。

ワークショップ参加者の男女比



ワークショップ参加者の年齢構成



図表2 「100人スケッチ」ワークショップ参加者の年代、性別構成

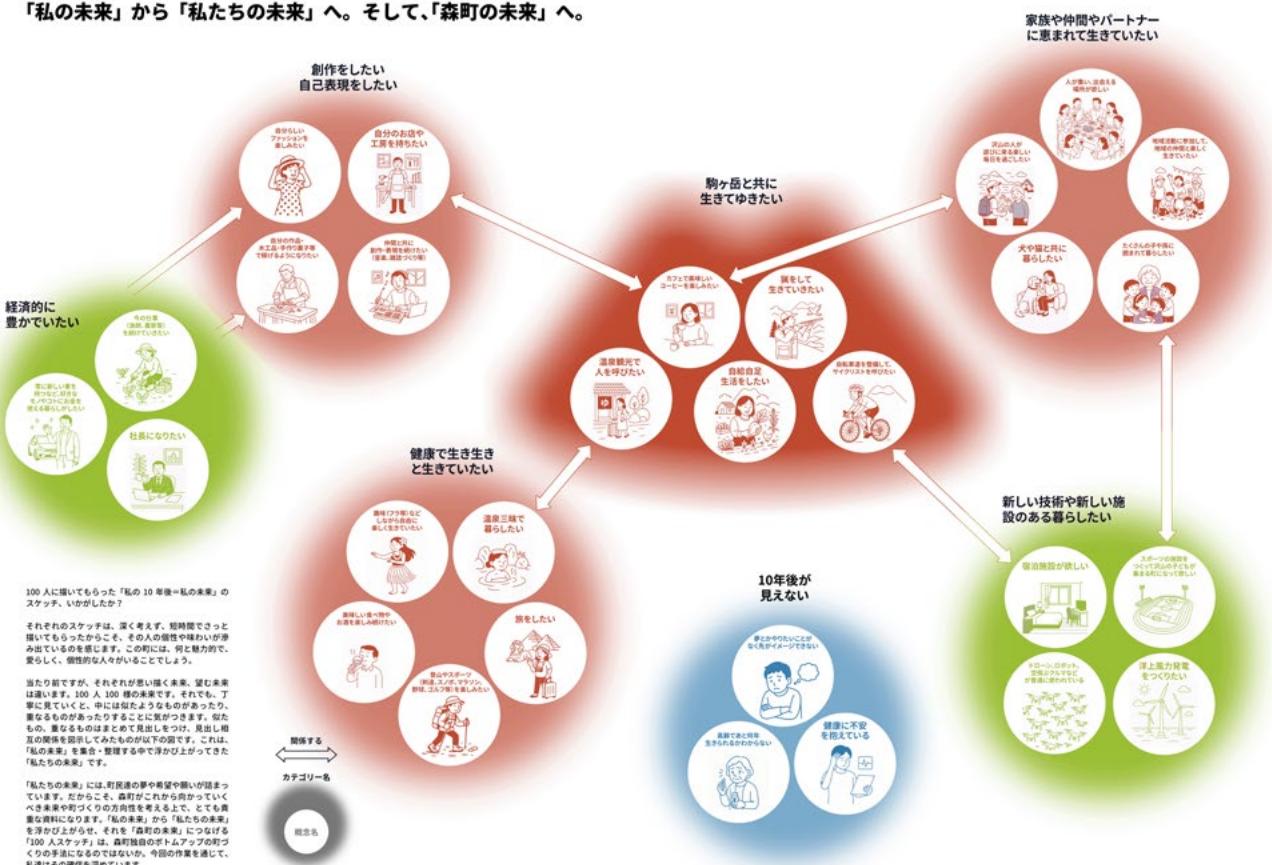


図表1 100人スケッチの実施風景



図表3 多様で個性溢れる一人ひとりの「私の未来」

「私の未来」から「私たちの未来」へ。そして、「森町の未来」へ。



図表4 「私の未来」の要素を抽出し、関連づける由から浮かび上がった「私たちの未来」

2-2 中学生対象のワークショップ「フォトオブザベーション」

森中学と砂原中学の2年生、約100名を対象に行ったフォトオブザベーションは、授業の時間を利用して、合計4回行った。1回目は説明。2回目以後は、各自が撮ってきた写真（基本は学校で配られているタブレットで撮影したが、家のデジカメで撮った生徒もいた）とそれに付したタイトル・解説文を授業中に組成された5～6人のグループ内で評価し合い、アドバイスを与え合う時間とした。4回目までに、自分の気に入った1枚を選び、タイトルと解説文を完成させる。それをこちら側で引き取り、プロのデザイナーにタイトルと解説文をレイアウトしてもらってポスターに仕立てるというのがワークショップの全体像である。ワークショップは図表5の日程を行った。森中学校は2年生が2クラスあったため、それぞれで実施した。

当初は戸惑っていた中学生達だったが、各グループに一人ずつこちら側の人員を配置し、写真の見方やタイトルの付け

方についてポジティブな評価をし続けたところ、回を重ねるごとに写真やテキストの表現が豊かになっていった。表現をするということに慣れていない様子の生徒が多かったが、表現に正解はなく、自由に、思うままにやって良いのだと言い続け、励まし続けたところ、段々と要領を得ていき、楽しくなっていったように見受けられた。各地でフォトオブザベーションを実践してきたMAU若杉教授も、中学生を相手にやるのは初めてで、どこまで出来るか未知数だったが、中学生でも問題なく遂行できる、ということを確認できたワークショップであった。

最後は、生徒達が4回目までに選んだ写真に、やはり生徒達自身が付したタイトルと解説文をレイアウトして、ポスターに仕立てた。このポスターは、百人百様の見方で切り取った「森町の今」を映し出すものとなった。これを「もりまち百景」と名付け、作品集として冊子にまとめ、参加者に配付した。

	森中学校		砂原中学校
1回目	5月8日（木） 2限目 09:35～10:25	5月8日（木） 3限目 10:30～11:20	5月9日（金） 5限目 13:25～14:15
2回目	5月21日（水） 2限目 09:35～10:25	5月21日（水） 3限目 10:30～11:20	5月20日（火） 4限目 11:40～12:30
3回目	6月18日（水） 2限目 09:35～10:25	6月18日（水） 3限目 10:30～11:20	6月17日（火） 6限目 14:25～15:15
4回目	7月11日（金） 2限目 09:35～10:25	7月11日（金） 3限目 10:30～11:20	7月11日（金） 5限目 13:25～14:15

図表5 フォトオブザベーションのスケジュール



図表6 中学校でのワークショップの様子



図表7 作品集「もりまち百景」を参加した中学生に配付した



図表 8 生徒達が撮った写真は最後はポスターに仕立てた

2-3 「森町のこれまで」 のリサーチ

「100 人スケッチ」による「森町の未来」の可視化、「もりまち百景」による「森町の今」の可視化に加え、「森町のこれまで」を可視化するため、縄文時代に遡る森町の歴史と地形や地勢や地質的な特徴、さらに産業の動向（産業別就業人口、漁獲高、農産物と畜産物の販売実績の推移）と人口動態について調査した。この調査を通じて、森町は古代から交通の要衝であり、加えて火山である駒ヶ岳の恵みと暖流と寒流が流れ込む噴火湾の豊かさが支えとなって、縄文時代から現在に至るまで人が住み続けた場所であったこと、とりわけ縄文時代には北海道の中でも最も人口密度の高い集落であったことなどを明らかにした。これらのリサーチ結果は、見やすいようインフォグラフィックスの手法を使って可視化した。

2-4 展覧会「みんなの森町展」とマルシェ「森町市場」

「私の未来」から「森町の未来」を示唆するものとなった「100 人スケッチ」、「森町の今」を中学生が切り取った「もりまち百景」、それにリサーチによって明らかになった「森町のこれまで」。これらを広く町民に見てもらえるよう、「みんなの森町展」と題する展覧会を開催した。展覧会の初日には、「森町の今」を体感してもらえるよう、森町の生産者が集うマルシェ「森町市場」を一日限定で開催した。

「みんなの森町展」と「森町市場」の会場となったのは、砂原の掛潤地区で長く使われていなかったかつての漁網倉庫（大ト島田倉庫）である。海沿いの駒ヶ岳を一望できる場所に立地し、木造で広大な内部空間と広い駐車スペース

を持つこの倉庫は、展覧会とマルシェをするにはうってつけの場所であった。

この倉庫の存在は、解放区のメンバーでもある砂原の漁師から教えてもらった。立地も空間も非常に恵まれた物件なので、放置しておくのは勿体ない。使えるようにできたら、直売所をやってみたいというのがその漁師の想いだったが、ならばそれを実現してみようじゃないかということで動き出したのである。

所有者にこちらの希望を述べたところ、原状復帰を条件に倉庫の使用許可がおりたので、早速、準備にとりかかった。長らく通電していなかったが、電線は生きており、電気を通すことは難しくなさそうだった。トイレがないのがネックだったが、これは仮設トイレを設置することで対処した。役場に話したところ、20 周年記念事業と位置づけてくれることになり、展覧会とマルシェの開催に必要となる最低限の実費は何か確保できることになった。そこで、下記の日程で展覧会とマルシェを開催することとした。マルシェは生産者が忙しい時期であることから、一日限定とした。マルシェに付随して、道南スギを生かした縁日も開催した。

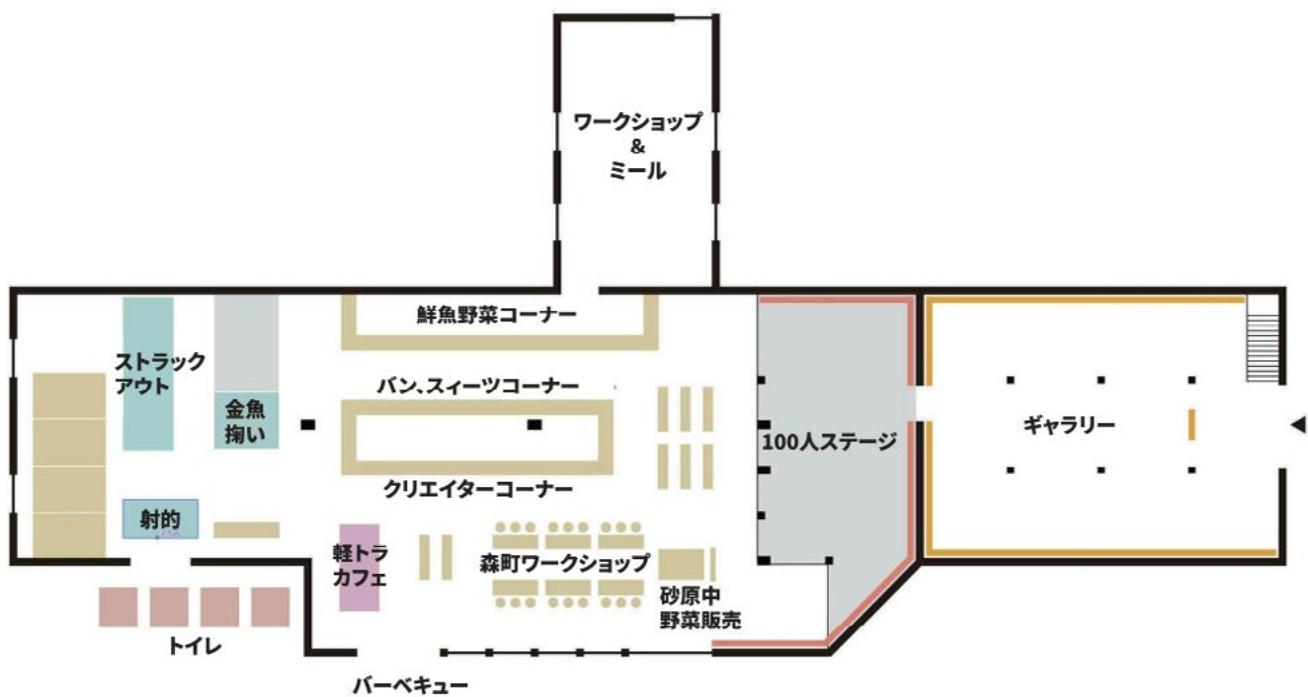
みんなの森町展：

2025 年 8 月 30 日（土）～9 月 6 日（土）11 時～17 時

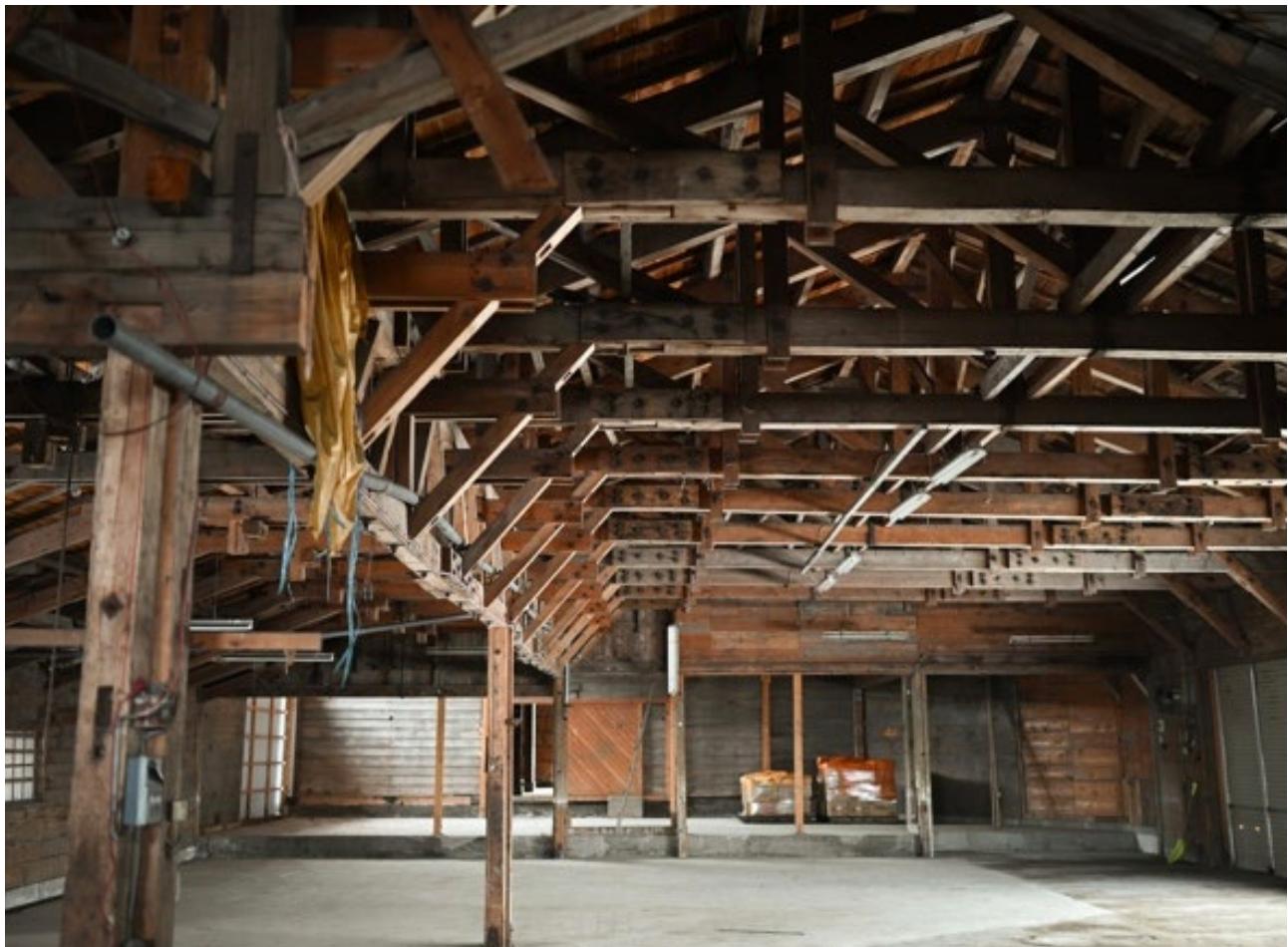
森町市場（縁日含む）：

2025 年 8 月 30 日（土）11 時～16 時

会場構成は図表 9 のとおりである。



図表 9 展覧会とマルシェの会場見取り図



図表 10 展覧会とマルシェの会場となった倉庫の外観と内観

マルシェでは、野菜（複数の農家から出品。販売は、農家と連携している福祉事業所が実施）、鮮魚・干物（漁師による直売）、パン・スイーツ（生産者による直売）が販売されたほか、森町に縁のあるクリエイターによる作品販売と書店による書籍販売も行われた。軽トラカフェを倉庫内に入れて、コーヒーも販売した。さらに、砂原中学校生徒による研究成果の発表と野菜の直売、森中学校生徒によるハーバリウムペン制作のワークショップも行われた。

縁日には、射的と金魚掬い（実際は魚釣り）を用意。射的はゴム鉄砲と標的を、魚釣りは魚を、それぞれ道南スギで制作した。用意されたステージでは、町内のミュージシャンによる演奏が行われた。

砂原地区では放送が流れたため、地元の人を中心に、11時の開店と共に人が押し寄せ、鮮魚・野菜コーナー、パン・スイーツコーナーを中心に大変な賑わいを見せた。時間限定だった鮮魚・干物コーナーには黒山の人だかりができ、スイーツも午前中には完売する店が出た。砂原中学の野菜も早々に売り切れた。午後は一転、穏やかな空気の中で、コーヒーなどを飲みながらゆっくり見て回る人が多かった。



図表 11 マルシェ開始直前の会場風景



図表 12 マルシェで販売された品々



図表 13 砂原中学校の生徒による野菜販売と研究発表風景



図表 14 開始直後のマルシェの賑わい



図表 15 縁日の様子（左は射的、右は魚釣り）



図表 16 ステージでは地元のミュージシャン so-ta が音を奏で続けた



図表 17 森町在住の書家・白土ひなたさんによる 20 周年を祝う書も展示された

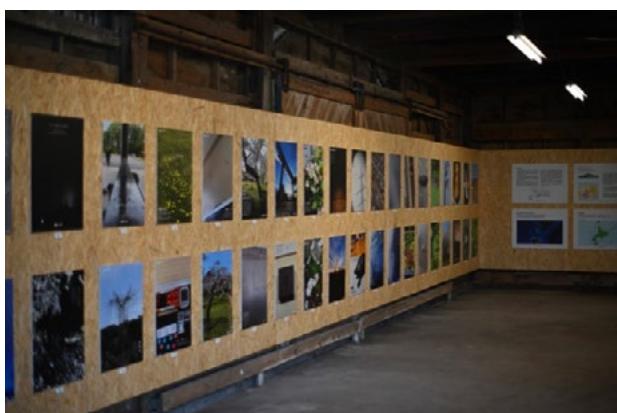
マルシェと同会場で開催された「みんなの森町展」では、「もりまち百景」と「100 人スケッチ」、そして「森町のこれまで」のリサーチ結果をパネルに仕立てて展示をした。初日の午前中はマルシェに人だかりができ、展覧会を見る人はほとんどいなかったが、午後になって落ち着いてからは、じっくりと展覧会をご覧になる方が多く見受けられた。マルシェは一日だけの開催だったが、「みんなの森町展」は、できるだけ多くの町民に見てもらうべく、9月6日までの一週間の開催とした。



図表 18 「みんなの森町展」外観



図表 19 展覧会入口に設置された案内版



図表 20 「もりまち百景」の展示風景



図表 21 「100 人スケッチ」展示風景



図表 22 「森町のこれまで」に関するリサーチ結果の展示風景

展覧会の最後に、見た人が意見や感想を書き残せるコーナーを設けたところ、多くの書き込みがあった。



図表 23 意見や感想を書き残せるコーナー

2-5 フォーラム「森町のこれまでとこれからを話し合おう」

「みんなの森町展」と「マルシェ」の開催に先立ち、「森町のこれまでとこれからを話し合おう」と題したフォーラムを開催した。日時は8月29日（金）18時～20時、場所は森町公民館の2階講堂。

フォーラムでは、まず、MAU若杉浩一教授とJRI井上岳一チーフスペシャリストから、2022年から森町を舞台に実施してきた共同研究の成果報告を行った。「森町のこれまで」を俯瞰しつつ、MAUとJRIが関わり始めてから森町で生まれてきた動きを報告した上で、「森町のこれから」を敷衍する内容であった。



図表24 若杉教授（左）と井上チーフスペシャリスト（右）による成果報告

次に、森中学校の生徒5人と砂原中学校の生徒5人が舞台に上がり、「もりまち百景」の中で自分が特に気に入った1枚についてそれぞれ説明してもらった。中学生の目に映る「森町の今」を皆で確認した。



図表25 中学生による「もりまち百景」の発表

その後は町長も交えて、若杉教授と井上チーフスペシャリストがモダレータを務めながら、対話を行った。フォトオブザベーションに参加した女子中学生から、「私はこの町のことが嫌いで、将来は出て行こうと思っていたけれど、フォトオブザベーションをしていたら、この町に住んでも良いかもと思えるようになった」というコメントがあり、町を見つめ直すことの効果を思いがけず知ることができる、貴重な機会となった。



図表26 中学生と町長との対話

最後に、会場で中学生達の話を聞いていた武蔵野美術大学の樺山祐和学長からコメントがあった。「美術は、お金はもたらさないかもしれないが、圧倒的な自由を人に与えてくれる」という学長のメッセージが印象的だった。



図表 27 武蔵野美術大学樺山祐和学長が最後にコメントを述べた

最後に、フォーラムと展覧会・マルシェの開催を告知したチラシを掲載しておく。

図表 28 20周年記念事業としての開催を告知するチラシ

3. 本事業に対する評価

新町誕生 20 周年記念事業として行われた本事業に対する町民の評価を測定することは難しい。フォトオブザベーションに関しては、参加した中学生と教員にアンケートを実施しているので、参加した側のこの事業に対する評価を把握することは可能である。

「みんなの森町展」については、来場者アンケートをとったものの、来場者全員からとれているわけではなく、一定の傾向は見られるものの、これをもって町民の評価とするのには無理がある。一方、会場には、ポストイットにコメントを書いて意見や感想を書き込めるコーナーをつくったが、ここには多くのコメントが寄せられた。これも評価の一つと言えるだろう。その他、マルシェの出展者には終了後の反省会でコメントをもらっているので、それも本事業に対する町民の評価と言えるだろう。「フォーラム」についても、参加者に対してアンケートを行っている。

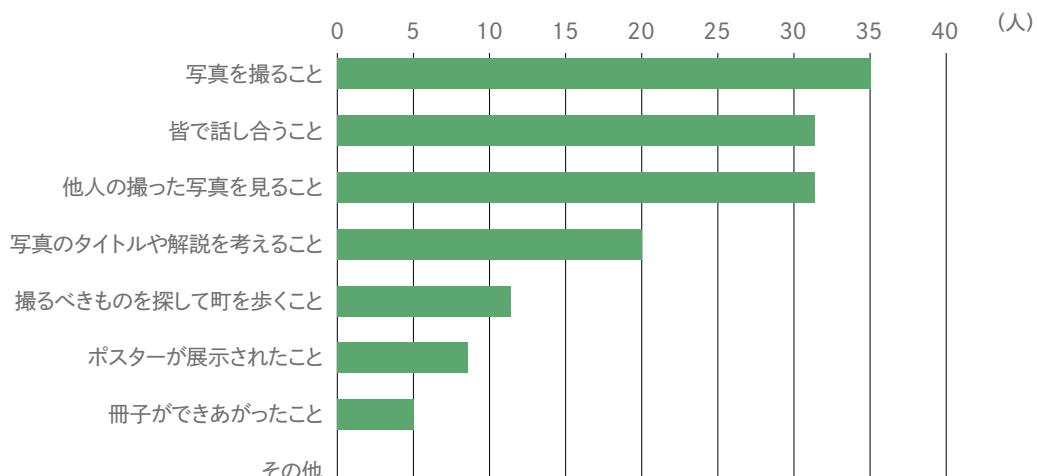
以下、フォトオブザベーションに対する評価、みんなの森町展に対する評価、フォーラムに対する評価、の順で見ていくこととする。

3-1 「フォトオブザベーション」に対する評価

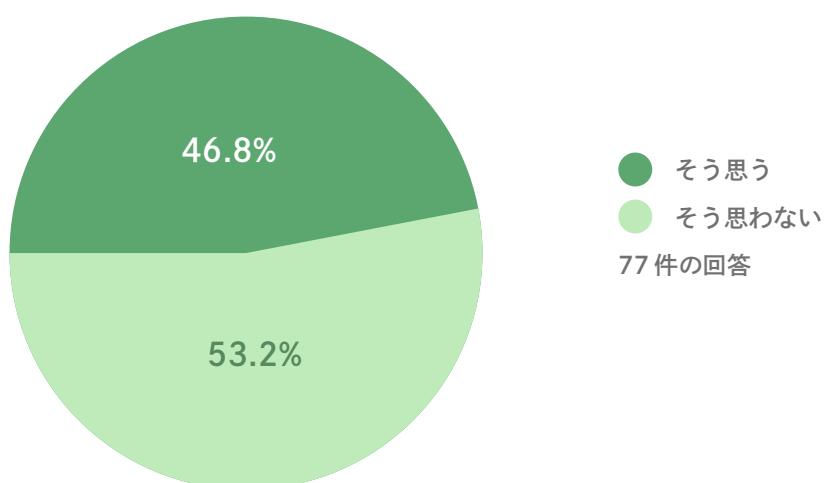
3-1-1 生徒による評価

アンケートの回答があったのは、森中学校（2 クラス）の 56 名と、砂原中学校（1 クラス）の 21 名、計 77 名。それぞれの設問に対する回答の集計結果は以下のとおり。

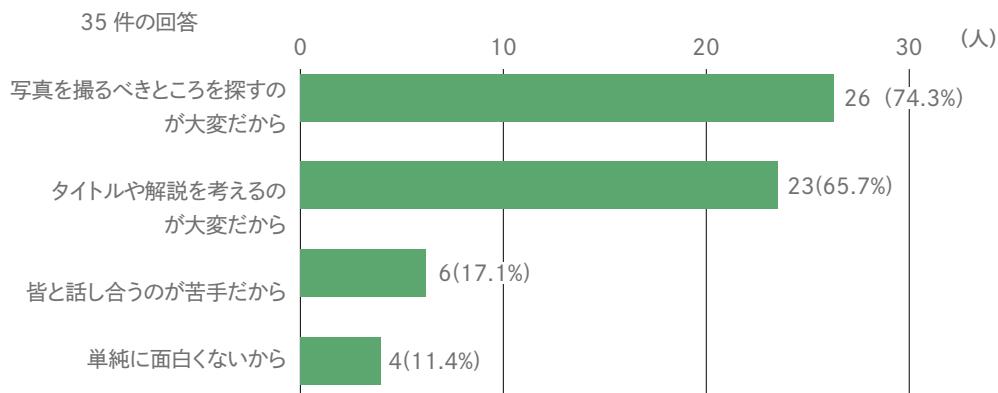
Q1. フォトオブザベーションに参加した中で、どの作業が一番印象に残っていますか？（複数回答可）



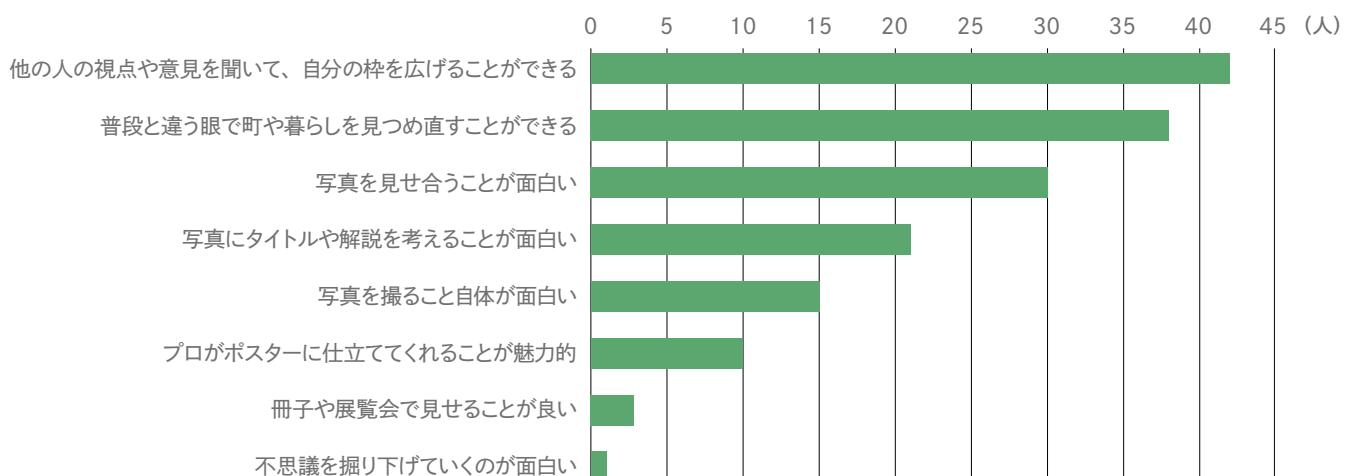
Q2. フォトオブザベーションにまた参加したいと思いますか？



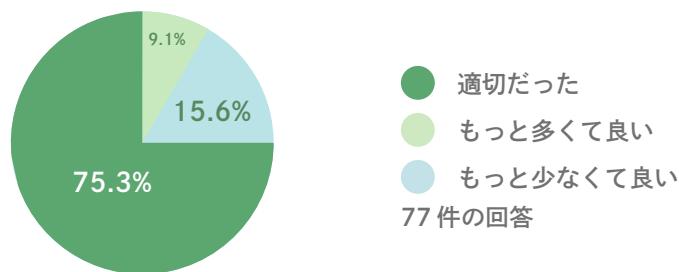
Q2 関連 「思わない」と答えた方は、その理由を教えてください。



Q3. フォトオブザベーションの良いところは何だと思いますか？(複数回答可)

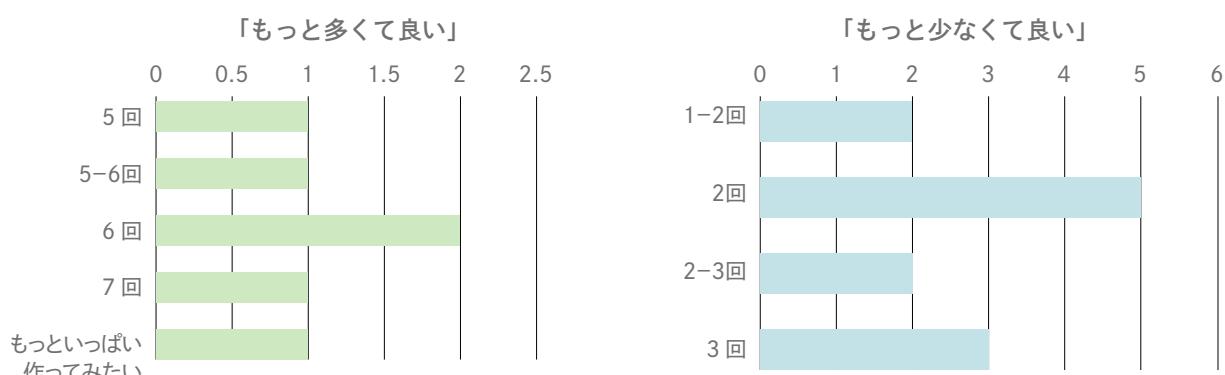


Q4. フォトオブザベーションの実施回数(最初のオンラインの講義を入れて4回)は適切でしたか？



Q4 関連 「もっと多くて良い」「もっと少なくて良い」という方は何回が適切だと思いますか？

「もっと多くて良い」と答えた生徒は 6 回程度、「もっと少なくて良い」と答えた生徒は 2 回程度が良いと答えている。「もっといっぱい」を作てみたいと答えた生徒もいた。

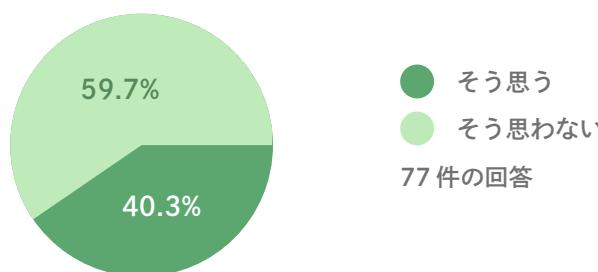


Q5. 今回の授業では様々な大人がファシリテーターとして参加しましたが、大人たちと関わる中でどのようなことを感じましたか？（自由記述）

- 面白かった
- 人々と関わる楽しさ
- いろんな考え方やものの見え方などがたくさん知れてよかったです。
- 特に何も感じなかった
- 自分たちの視点だけじゃなく、大人の視点もあることで考え方を面白くしたり、アレンジしたりできた。
- 大人目線の意見も面白いと思った。
- 世代別の視点
- 大人と私たちでは考えることや思ってることが全然ちがつた
- 違う発想を持っているなと思った
- 大人の人の関わりも持てて、友達との見せ合いの時にももっと深く関われた。
- 大人と子供では視点が違うんだなと感じた。
- 大人と子供では見る視点が違うんだと思った。
- 色んな考えを教えてくれて嬉しかった
- 特にないです。
- どんな写真もいいところ、工夫した方がいいところを詳しく説明できてすごいと思った。
- 自分とは全く違う考えを持っていて面白かった
- 少し緊張した。
- 思ったより自由に写真を撮れるんだと思った
- いつもと違う見方ができた
- 普段あまり関わらない方達だったので楽しかったし面白かったです。
- 何をしたらいいのかなどの色々説明してくれて助かりました
- 写真からどんな風に感じられるかをみんなで考えられた
- 大人の意見や考え方方がわかった。
- 話しやすくてよかったです
- 作品をまとめてわかりやすくなっていて、いいなと思った
- 自分たちじゃ出てこないような感想が出てきたりして面白い
- みんな面白いなと思いました。
- 大人と子供で色々な意見が出るんだな
- 交流できた
- 知らない人たちと取り組むのが楽しかった
- 交流がでて楽しかった
- 話し合う大切さ
- あまり感じなかった
- 大人と子供では写真の感じ方や感性が違うなど感じた
- 楽しさ
- タイトルをつけるとき、自分では思いつかないようなアイディアが出てきたのすごいと感じました。
- 少し緊張したけど、アドバイスをくれて改めて直すと良いところや改善点が知れたことです。
- いろんな人と関わって楽しかった
- ありがたいと思った
- いろいろ学べた
- ありがたいなと思った
- ない
- 仕事はこんな似た感じなのかと思った
- 自分の考えにはない考え方とか思考を持っていたりしてへえーってなることが多くて勉強になった
- 生徒とは少し異なる見方・考え方があったと思う
- ちゃんとまとめてくれてよかったです。
- 関わったことのない大人の助けを借りて授業を受けることが少し緊張した。
- 人と関わるのは大事なことなどと感じた。
- すごいと思った
- アドバイスをくれて、楽しかった。
- 話し合いなどをスムーズに進めてくれたのでやりやすかった。
- 自分では思いつかないタイトルとかをたくさん言ったりしていてすごいと思つ
- 大人でも子供のような考え方だったりがあったこと
- アドバイスとか結構もらえて良かった
- いろんな視点から見れた
- いろいろなことを教えてくれること
- 自分の作品に対しての大人からの意見などを聞けて良かったし色々学ぶところがあったと思う
- 考えが違うなと思った
- 大人の意見が凄かった
- 専門的な知識やお話は、自分じゃ考えがつかないものもあってとても勉強になった
- 解説やタイトルを考える時に手伝ってもらって嬉しかった
- 関わりやすくてどうしたら良くなるとか意見をくれてわか

- りやすかった
- ・わかんない
 - ・ちょうどいい間
 - ・タイトルの案を考えるのがとても上手だと思った。
 - ・おもしろかった
 - ・自分たちとは違う考えがあった
 - ・足りない部分も足せた
 - ・とても賑やかでとても面白かったです。
 - ・いろいろな視点で考えることができたこと。
 - ・一つのものでも色々話が広がる
 - ・大人の人の意見も聞けてより良いものにできるなど感じました
 - ・大人との関わりで色々なことを考えられた。
 - ・私の作品をもっと良くするためにアドバイスや直した方がいいところを教えてくれて良かった

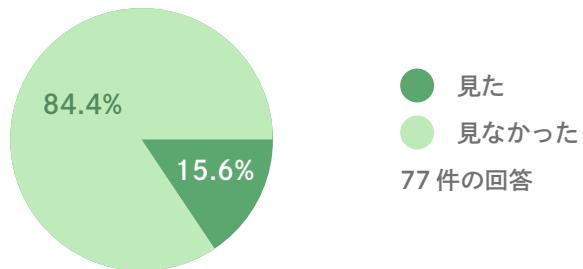
Q6. 今回、特別な授業として行いましたが、通常の授業に取り入れるべきだと思いますか？



Q7. もう一度フォトオブサベーションを行う機会があれば参加しますか？



Q8. 砂原（掛潤）の倉庫で行われた展覧会「みんなの森町展」での「もりまち百景」でのご自身の写真の展示はご覧になりましたか？



Q8. 関連 展示をご覧になった方、展示をご覧になって、どのようなことを感じましたか？（自由記述）

- みんなのを見て、すごいと思った
- 色んな考えがあって面白い
- 綺麗だと思った
- 雰囲気が暖かくてよかったです。
- 中学生の撮った写真がたくさん並んでいることが新鮮だったし不思議で面白かったです。
- 森町砂原にはいろいろな場所があると思った
- みんな頑張ったなーと思った
- 個性豊かな感じでとても面白かったです。
- 自分たちも負けじと宣伝をしたけど、先に完売されて悔しいです。

Q9. 作品集や展覧会でポスターとなった自分や友達の作品を見て、どのようなことを感じましたか？（自由記述）

- 人それぞれ撮ってるものが違って、自分と違う視点が色々わかった。
- 面白くて個性がでてた
- 自分では気づかなかつた見方が面白いと感じた。
- 自分のが良いのかあまりよくわからなかつたけど、友達のはいい作品だと思った
- みんな個性豊かだなと思った
- 自分と全く違うのを作っていて、こういう考え方もあるんだと思った
- 綺麗だな、変わってるなって思いました
- 色んな見方があるなって思った
- 自分には思わなかつた写真のタイトルがあるんだなと感じた
- 説明の文字が小さかったので、ポスターは自分の思い通りにいかなく、自分で作れたら嬉しかつた。
- 絶対に自分では思いつかないようなタイトルだつたりして面白い。
- すごいなあー
- おもしろかった
- 写真に対する見方が変わつた。みんなのみかた次第でいろんな物語や、場面を想像したりできるところが面白かったです。
- みんな面白かった
- そんな視点もあるんだとか色々面白かったです
- いろんなのあって面白かった
- 個性
- 当たり前のものをいろんな視点から見ることができてすごいと思った
- 面白い
- 自分たちが撮つた写真が展示されていてすごくみんなの作品が魅力的に感じた
- みんな写真が個性的で面白いなと思った。
- すごいなって思った

Q10. その他、講師陣や先生などに対して感想や意見、質問などがあれば自由に書いてください。（自由記述）

- 他の人の写真や意見が面白くてとても面白かったです。
- 楽しい授業をありがとうございました
- みんなの写真見て話し合つたりするのが楽しかつたです
- 教授の意見や話が面白かったです
- 講師の方々が面白くて楽しかつた
- ない
- 貴重な体験ありがとうございました♪

〈考察〉

Q3 の「一番印象に残った作業」は、「写真を撮ること」が一番票を集めましたが、「皆で話し合うこと」「他人の撮った写真を見ること」と答えている人も同等に多い。Q4 の「他の人の視点や意見を聞いて、自分の枠を広げることができる」が一番になっており、写真を通じて他者とコミュニケーションすることに、多くの生徒が価値を感じていることがわかる。同時に、「普段と違う眼で町や暮らしを見つめ直すことができる」をフォトオブザベーションの良い点と評価している生徒も多く、フォトオブザベーションの本質を中学生が理解していることには驚かされた。その他の問い合わせに対する回答を見ても、フォトオブザベーションに参加したことの生徒達にとっては得がたい貴重な体験となっていたことが窺える。

その一方で、Q2 の「フォトオブザベーションにまた参加したいか?」との問い合わせに対しては、かろうじて過半数が「そう思う」と答えているものの、半数近くが「そう思わない」と答えており、生徒にとって、フォトオブザベーションが必ずしも大歓迎のプログラムではなかったことがわかる。「そう思わない」理由としては、「写真を撮るべき場所を探すのが大変だから」「タイトルや解説を考えるのが大変だから」を多くの生徒が挙げており、負担感を感じている生徒が少なからずいたことが窺える。これは、Q6 の「フォトオブザベーションを通常の授業に取り入れるべきか?」との問い合わせに対して、過半数が「そう思わない」と答えており、Q7 の「もう一度機会があったら参加するか?」の問い合わせに対し、「回数や時期次第」と答えている生徒が多いことからもわかる。とは言え、Q7 で「参加しない」と答えている生徒は全体の 1/4 に満たず、二度とやりたくないというような強い否定感情を持っているわけではないことがわかる。

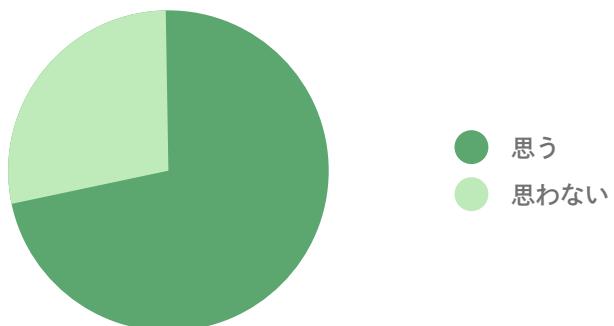
実際にワークショップをしていて感じたのは、砂原中学校の生徒は学校の外の写真、とりわけ風景の写真が多かったのに対し、森中学校の生徒は圧倒的に校内や室内の写真が多く、それゆえに風景というより事物の写真が多いことだった。森中学校の生徒はできるだけ学校にいる時間内に撮影を済ませてしまおうという意図が透けて見えた。

また、一クラスが 20 名余の砂原中学と一クラスが 30 名超の森中学校とでは、こちら側の関わり方でも違いがあった。砂原中の場合、45 分の授業時間の中でも、十分に一人ひとりの生徒と対話できるように思えたが、森中学校ではそれが難しく、どうしても一人ひとりの生徒と深いコ

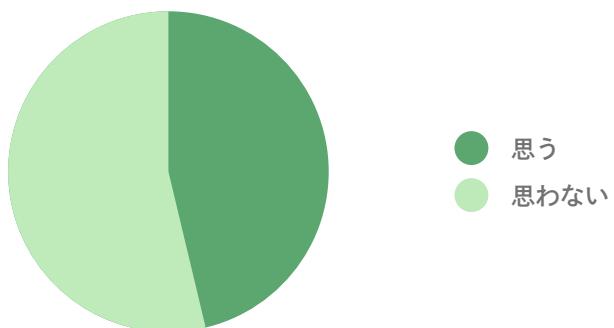
ミュニケーションができないという限界があった。「他者とのコミュニケーション」がフォトオブザベーションの本質的価値の一つであるとすれば、森中学校の生徒は、時間的制約があるがゆえに、質の高いコミュニケーションを提供できなかったという反省がある。

実際、Q2 に対する回答を学校別に集計してみると、砂原中学校では、ほぼ 3/4 の生徒が「また参加したい」と思っているのに対し、森中学校では、逆に、そう思っている生徒は半数に満たないという、明確な違いが生まれている。

砂原中学 (21 人)



森中学 (56 人)



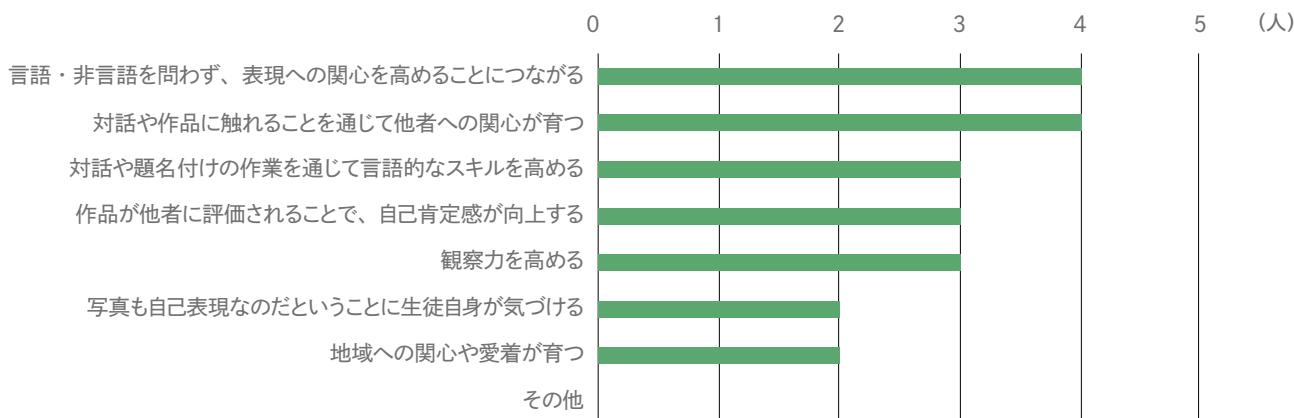
残念だったのは、砂原地区で開催された「みんなの森町展」を見に行った生徒が、ごくごく少数に留まったという事実である。できれば全員に見てもらいたかったが、それはならなかった。学校側にも働きかけをお願いしていたが、そこは限界があったようである。展覧会会場は、どちらの中学校からも遠く、中学生が気軽に見に行ける場所ではなかったことが要因と考えられるが、かえすがえすもその点が残念であった。

我々外部の講師との関わりが、概ね好意的に受け止められている点は良かったと思う。Q3 から窺えるのは、生徒達は自分の枠を超えたがっていることで、そのためには、親とも教師とも異なる価値観を持つ第三の大人と関わり、対話をすることが、非常に重要な意味を持つのではないかということが、Q5 の「様々な大人たちと関わる中でどのようなことを感じたか」への生徒達の回答の中から感じ取ることができる。

3-1-2 教師による評価

森中学と砂原中学の5人の教師がアンケートに回答してくれた。それぞれの設問に対する集計結果は以下のとおり。

Q1. フォトオブザベーションにはどのような可能性があると思いますか？（複数回答可）



Q2. 授業の中で、学校以外の大人（ファシリテーター）との関わりを通して、生徒の成長を感じられた場面があれば教えてください。（自由記述）

- 表現に自信を持てるようになった。
- 話にしっかりと耳を傾け、理解しようとし、また集中して取り組んでいる場面が、普段の学校生活以上に多く、素晴らしかったです。
- “これくらい自己表現してもいいんだ”という表現するまでの限界？線引き？が広がったような気がします。
- 大人と接することで自分自身を深く見つめることができたように思う。
- 普段の授業の際は、子どもたちのみで交流するが多く、今回、大人の方々が場を温めてくださり、より多くのアイデアや表現が生まれたように感じました。

Q3. フォトオブザベーションをきっかけに生徒全般に見られた変化があれば教えてください。（自由記述）

- 身近な物・事への関心が高くなった
- 他の人が何を見てどう感じたのかを知りたいという知的好奇心が向上したと思います（2人）
- 自分の表現した作品が他者に評価されることで自己肯定感が高まった。
- 表現の豊かさや交流の際の言語化する力が高まったように感じました。

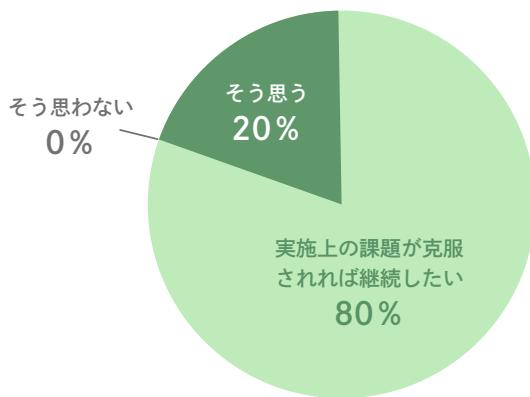
Q4. フォトオブザベーションをきっかけに、少数の生徒・特定の生徒に見られた変化があれば教えてください。（自由記述）

- 自分の作品を説明したいという前向きな気持ちや表現力に磨きがかかる生徒がいました。（2人）
- リーダー性を高めることができたように思う。
- 授業では積極的になれない生徒が29日のフォーラムにも自主的に参加するほどに自信をもって発展していったこと。

Q5. 教師として、学校として、フォトオブザベーションに学ぶべき点があったとすれば、それは何ですか？（自由記述）

- 表現することの大切さ
- 何をどう見てどう感じたか、十人十色が可視化され、表現の自由・面白さがとても伝わったので、教科指導や学校教育の中で生かしたい。
- それぞれの時代、学年で見方が変わるのかなと思いました。
- 自分の作品が町民の目に触れることで、森町への愛着につながるものになった。
- 他人と作品を表現して発表する機会が今までにあまりなく、貴重な経験でした。

Q6. 今後もこの活動を継続するべきでしょうか？



Q7. その他、改善したほうが良い点や、工夫すべき点があれば教えてください。（自由記述）

- ・見通しを教師（学校）・子供が持てるとなお良いと思いました。
- ・「みんなの森町展」で子どもたちの作品を展示していただきましたが、とても素敵なものになっていましたので、一度生徒たち自身が手にとって見られるように学校で展示できたらなあとと思いました。
- ・フォトオブザベーションをずっとやりつけられるプログラムがあるとうれしい。
- ・カメラの性能上、仕方ないが画質が悪いものがあり、もったいない作品があった。

Q8. 講師陣に対して意見や感想、質問などあれば自由にお書きください。（自由記述）

- ・展覧会で子ども達の作品が並んでいるのは壮観でした。お忙しい中、子ども達のためにありがとうございました。
- ・人生において、こんな“おもしろい”経験はなかなかにできるものではないなと思いました。貴重な機会を子ども達に頂き、本当にありがとうございます！！
- ・とても有り難く思っています。全体に話をしてもらえた嬉しいです。
- ・これまでの教育課程ではない体験をすることができ、とても貴重なものとなりました。学校外の方と一緒に授業を行うことは生徒にとっても新鮮なものであり、生き生きと活動していました。このような経験をさせていただき感謝しています。ありがとうございました。

〈考察〉

教師達はフォトオブザベーションを高く評価している。特に、作品を通じてグループで話し合ったり、きちんと作品に仕立てて、展覧会で発表したりする点に、フォトオブザベーションの他にない教育的効果を感じている様子が窺える。さらに、外部の大人が関わることで、子ども達が新鮮に取り組めていること、外部の大人の価値観や教師にはない関わり方が生徒達の枠を広げ、自己肯定感を高め、生徒の中にあるものを引き出すことにつながっている点を評価している。

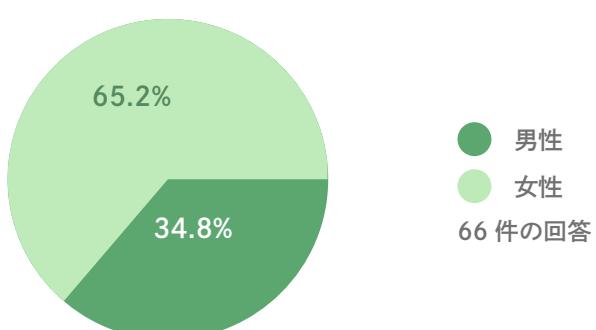
回答してくれた5人の教師の全員がフォトオブザベーションを継続できればという意向を持っているが、そのうち4人は、「実施上の課題が克服できれば」という留保をついている。「実施上の課題」が何を意味するかは確認できていないが、今回の実施に当たっても課題となった授業時間内でのフォトオブザベーション向けの時間の確保と、上述の「外部の大人の価値観や教師にはない関わり方」をどう継続的に担保していくのかが、「実施上の課題」と認識されているのであろうことは想像に難くない。後者に関して、今回のワークショップの実施に当たっては、MAU若杉、JRI井上に加えて4名のクリエイターがファシリテーターとして参加しているが、このような手厚い体制を組み続けることはこちらとしても難しく、今後、継続するのであれば、地域の中にボランティア・ファシリテーターを養成するなどの仕組みが求められることは必至である。

3-2 「みんなの森町展(含マルシェ)」に対する評価

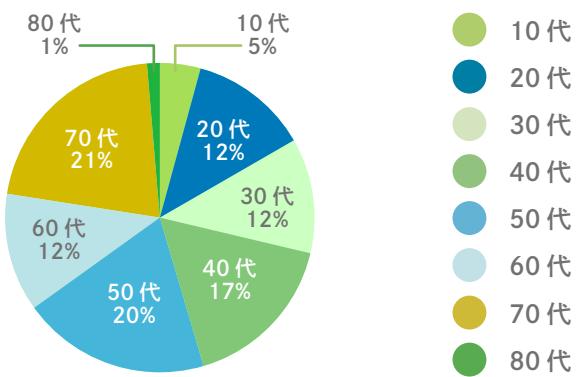
3-2-1 アンケートの結果

来場者にアンケートを書いてもらったが、沢山の来場者の中でアンケートを渡して回答頂けたのは66名であり、このイベントの評価とするにはあまりに制約のあるデータであるが、参考までに集計結果を記載しておく。

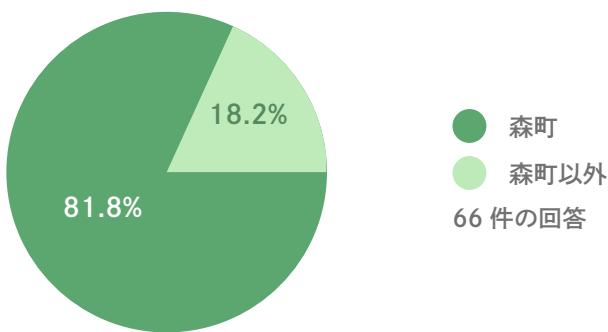
Q1. 来場者の男女比



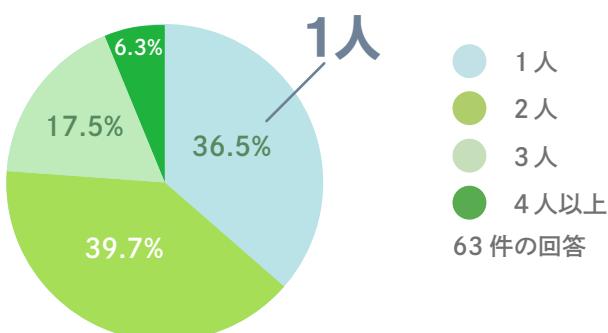
Q2. 来場者の年代構成



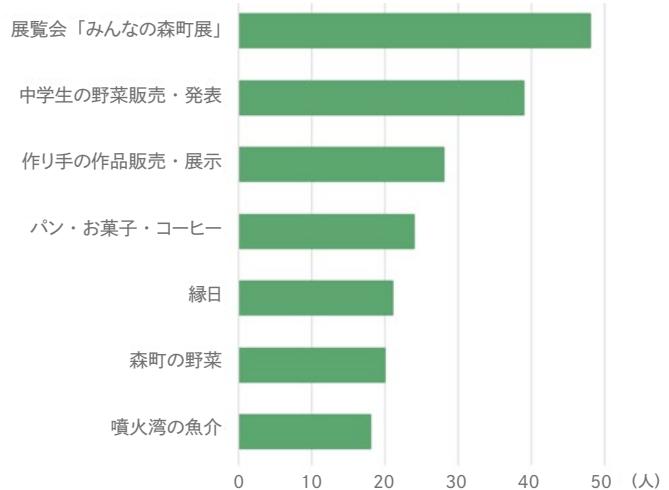
Q3. 来場者の居住地



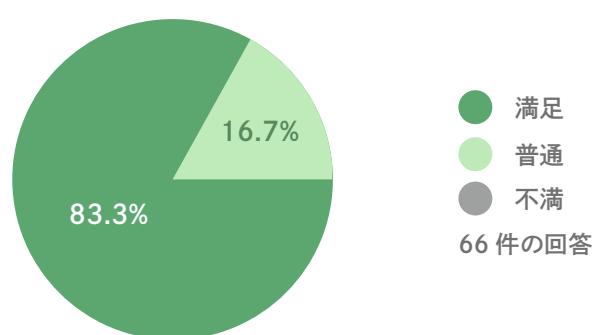
Q4. 来場人数



Q5. 特に満足度の高かったイベント



Q6. イベント全体の満足度



Q7. その他お気づきの点やご意見など(自由記述)

- 人が集まるイベントが持続可能であるとさらにいいと思います。
- 中学生がこども達にとても親切にしてくれました。
- 砂原でイベント、とても新鮮で楽しかったです。座れる場所がもう少しあるとありがたいです。
- みんな親切で良かったです。
- 砂原中の野菜部の研究に興味を持ちました。家庭菜園に役立てたいです。
- ありがとうございます。
- せっかくいい場所があるから、継続してほしい。森町には人が多いね~。
- 楽しかった
- とっても癒されました。毎年やってください。ありがとうございます。
- すばらしかったです。ありがとうございます。
- 楽しかったです。

- ・移住して初めて来ました。このようなイベントがたくさんあると楽しいですね！
- ・人がたくさん集まり、まちの人たちが楽しそうにしているのが心地良かったです。うらやましいなと思いました。
- ・すごく楽しかったです。
- ・とても楽しいイベントでした。町のやさしさが伝わってきて森町に魅力を感じました。
- ・中学生の野菜作りが気になりました。
- ・来てよかったです。こんなマルシェみたいなのが、もっとあるといいなと思います。
- ・こどもたちの明るい笑顔がステキでした。
- ・たのしかったです!!
- ・場所が分かりにくい。無線放送の日時発信の仕方に課題あり。
- ・20周年のイベントを砂原で行っていることに意義を感じました。おつかれ様です。
- ・毎年やってください！！

〈考察〉

アンケートをとれたのはごくごく限られた人数だったが、イベント自体の満足度は高く、またこのようなイベントを町民自体が求めていることが窺えた。このほか、来場者から直接伺った反応としては、今回、会場として使用した倉庫を非常に高く評価している声が多かった。継続的に使用できるようにし、マルシェなどのイベントをやって欲しいという声が非常に多かった。来場者の居住地が旧砂原町と旧森町とで区分できていないため、砂原地区の町民の割合は把握できていないが、出展者達に聞いたところ、マルシェ参加者は圧倒的に砂原地区の町民が多かったとのことである。砂原地区はスーパーなどがら、新鮮な野菜や魚介類を買える場所が切実に求められていると言えるだろう。

中学生のイベントが人気だった。今回、中学生の吹奏楽部による演奏なども案としてはあったが実現できなかったのが悔やまれる。今後、このようなイベントをする時には、地元中学生の関わりをもっと増やしたいところである。

3-2-2 会場での書き込み

図表23で見た会場の書き込みコーナーに集まったコメント（ポストイットに書き込んで貼り付けられたもの）は以下の内容であった。

- ・みんなできれいな風景とかを見たい
- ・森町の恵みでスパイスカレーをつくるくらし
- ・駒ヶ岳に登り、温泉で癒される♪
- ・サイクリングで町を走る おいしい物を食べる
- ・森町のおいしい食べ物をずっと食べたい！
- ・いぬといっしょにくらす
- ・ラッキーピエロに通う！暮らし
- ・釣りを楽しむ！
- ・砂原にカラオケつくってみんなが遊べる所がいっぱいあるくらし
- ・ねこに囲まれたい
- ・ふらっと立ち寄ってぐっ！とくる町へ
- ・自然を生かした第一次産業を大切に！
- ・これからも優しさあふれる森町！
- ・海の体験ツアー ウニやホタテやお魚

- ・駒ヶ岳一周 電動自転車やマラソン? も
 - ・星をただただ見る会
 - ・こどもたちが笑顔でいっぱい元気にあそべる施設(公園) !
 - ・森町を味わい尽くせる宿泊施設を作りたい!
 - ・駅前にカーシェア 旅人が車で自由に走る!
 - ・砂原⇒森の交通手段がふえてほしい!
 - ・町内外問わず人が集まりたいと思える拠点が欲しい(作りたい)
 - ・この場所をもっと使いたい!
 - ・人口増えるといいね 働く所が沢山あるといいね!
 - ・森町の観光ツアーを企画したい
 - ・地産地消 規格外の商品を売れるマルシェがあつたらいいな
 - ・野外映画
 - ・この島田倉庫を活かしたイベント(サウナとか)
 - ・アメ車イベント
 - ・イベントをふやしてほしい
 - ・AIR(アーティストインレジデンス)を森町でやってみてほしいです
 - ・お店をふやしてほしい
 - ・若い子たちが…あそべる場所を作つて下さい
 - ・雪まつりを森町でもやってほしい!
 - ・服屋さんをつくつてほしい
 - ・町コン
 - ・サバゲー
 - ・水族館
 - ・ピアガーデン
 - ・モールをつくつてほしい
 - ・IKEA
 - ・コストコ
 - ・古着屋さん
 - ・モールを立ててほしい!
 - ・ボードゲームカフェ
 - ・トマトおいしかったです
 - ・えび天おいしかったです
 - ・みんな元気!
 - ・なんかうれしくて、やさしくて涙が出る
 - ・今日はとてもいい日♪ 元気でラッキー♪
 - ・わたし荒木でーす!
 - ・立派な森町
 - ・さわら中スイちゃんでーす!(亀の絵)
 - ・エルサが大好き 会いたいからきてください!
 - ・さかえる森町
- (上記に加えて、魚、ホタテ、木々、サル、アンパンマン、ラッキーピエロ、アヒルなどの絵が描かれていた)

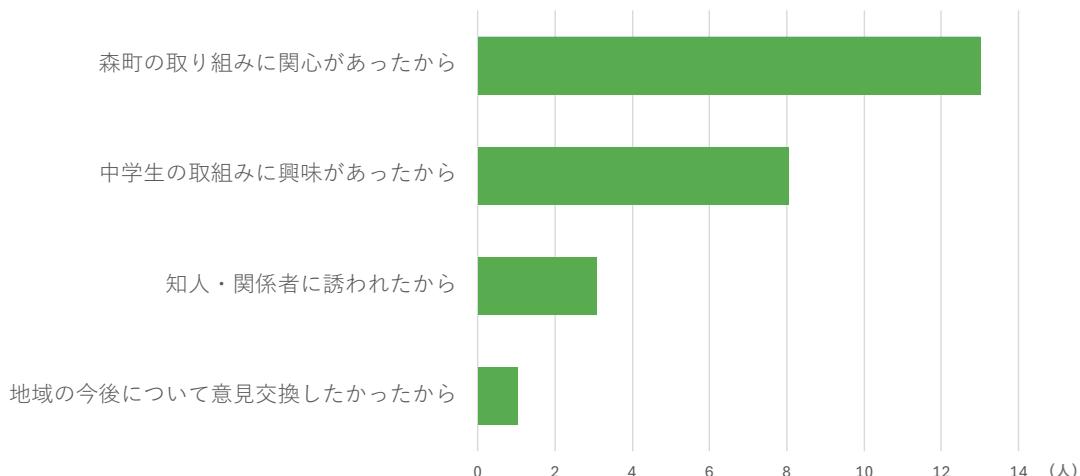
〈考察〉

展覧会が町民の意識を高揚させていることが伝わってくるコメントが多かった。シビックプライドを高め、この町に住むことの意味を確認するためにも、展覧会は意義深いとの実感を得た。

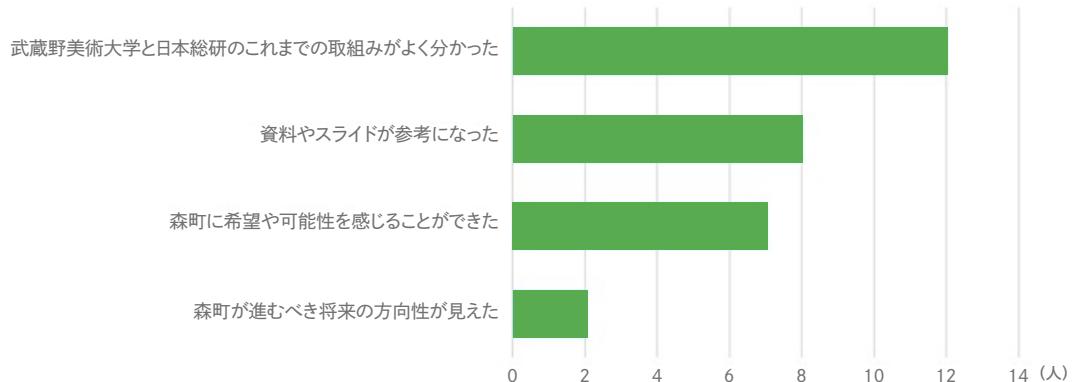
3-3 フォーラム「森町のこれまでとこれからを話し合おう」に対する評価

8月29日のフォーラム参加者に対してもアンケートを行った。告知の失敗により参加者が少なく、参加者は少なかったが、その少ない中からも、19名からアンケートを回収することができた。アンケートの集計結果は以下のとおり。

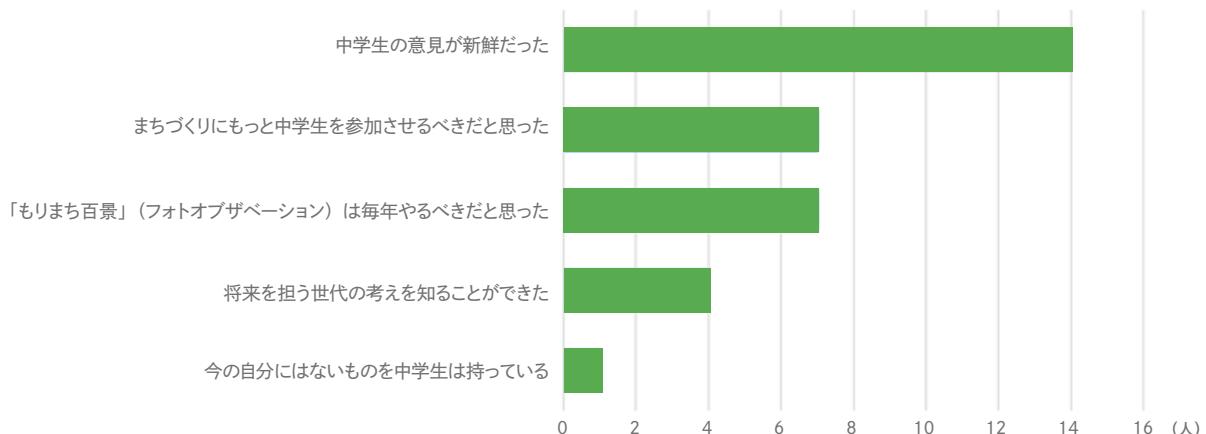
Q1. 今回、このフォーラムに参加しようと思ったきっかけを教えてください。(複数回答可)



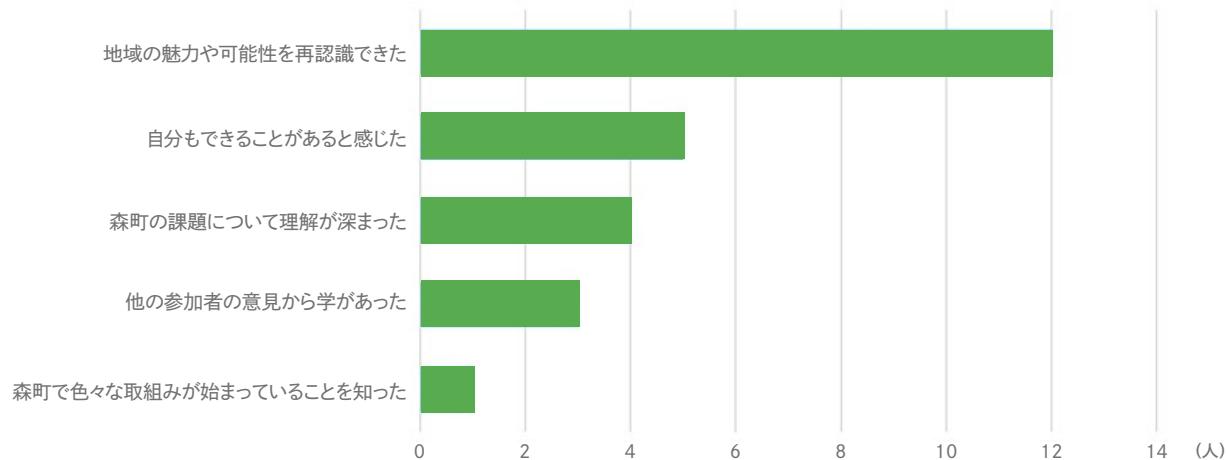
Q2. 報告会の内容で「良かった」と思った点を教えてください。(複数回答可)



Q3. 中学生との座談会を聞いて、感じたこと・考えたことを教えてください。(複数回答可)



Q4. 今回の参加を通して、新たな「気づき」や「発見」がありましたか。(複数回答可)



Q5 全体を通しての感想・ご意見・ご要望をお聞かせください。(自由記述欄)

- なにもないことはない。そのことをもう一度思い出しました。
- フォトオブザベーション、縄文でやっても面白いかと思いました。
- もっと多くの森町民に参加してもらいたいので、もう少し早めに案内するなどの工夫を考えるのはどうか。
- 自律性を育てる手段とは?今日の参加状況のさびしさから、それが大事と思う。行政や教育の役割を聞きたかった。
- フォトオブザベーションは面白かった。
- 沢山の方に聞いてほしいと思います。学校祭、文化祭でも展示できれば、町の方へもっと届くのかと思います。素敵な時間をありがとうございました。

〈考察〉

フォーラムは、参加者には好意的に受け止められている。とりわけ、Q4で「地域の魅力や可能性を再認識できた」と答えた方が多かったことは良かった。また、森町の未来を担う中学生の意見を新鮮に感じ、まちづくりに中学生を参加させるべきだという感想を持つ人が多かったことも、「森町のこれから」をタイトルに冠したフォーラムの意味を果たせたと思う。

一方で、集客は完全に失敗しており、その点に関しては、「もっと多くの方に聞いて欲しかった」「もっと早くから周知すべきだったのでは」との意見が寄せられている。町長も中学生も参加するイベントなのに、一般の人がほとんど参加していなかったのは完全に失敗である。少なくとも舞台に上がる中学生の親達は来るだろうと思っていたが、当の親からは、「親が参加して良いイベントと思わなかった。そういう場ならそう言ってくれれば参加したのに」と苦言を呈されてしまった。集客・告知に関しては、今後に向けた課題としたい。



第二部

「みんなの森町展」で 展示したパネルの内容

2025年8月30日から9月6日まで、砂原地区の大ト島田倉庫で開催した「みんなの森町展」で展示した展覧会で展示したパネルの内容をここに再掲する。

みんなの森町展 -森のひと・森のきもち・森のみらい-

森町と砂原町が合併して新しい森町ができてから、今年でちょうど 20 年になります。

この記念事業の一環として「みんなの森町」展を開催します。

企画・発案は、武蔵野美術大学と日本総合研究所です。両者は、2022 年 11 月に共同研究を開始。森町を研究のフィールドに定めて、以来、毎月、森町に通っています。

一人ひとりが自律的に振る舞いながらも、周囲の人と力を合わせ、個と全体の本領を發揮する社会（＝自律協生社会）を実現するためには何が必要か。それを明らかにすることを共同研究のテーマとしています。まずは一人ひとりの声に耳を傾けることから始めようと、この 3 年間、様々な方々と交流し、対話を重ねてきました。

様々な人と知り合い、話を聞く中で、この町の一人ひとりの考え方や望みや夢を可視化し、町づくりに生かす方策はないかと考えるようになりました。その方策の一つとして企画したのが、本展覧会です。

本展覧会では、町民の方々の参加を仰ぎながら制作したコンテンツ「もりまち百景」と「百人スケッチ」に加えて、過去を知り、現状を知るためのパネル展示を行っています。

「もりまち百景」は、子ども達（中学生）の目にこの町がどう見えているのかを可視化したもの、「百人スケッチ」は、森町に暮らす方々が自らの願いや思いを表現したものです。加えて、森町の豊かさを実感して頂くための、一日限定のマルシェ「森町市場」も開催します。

森のひとを知り、森のきもちを寄り添い、森のみらいに思いを馳せるための展覧会「みんなの森町展」、是非、お楽しみください。

森町長 岡嶋康輔

武蔵野美術大学教授 若杉浩一

日本総合研究所チーフスペシャリスト 井上岳一

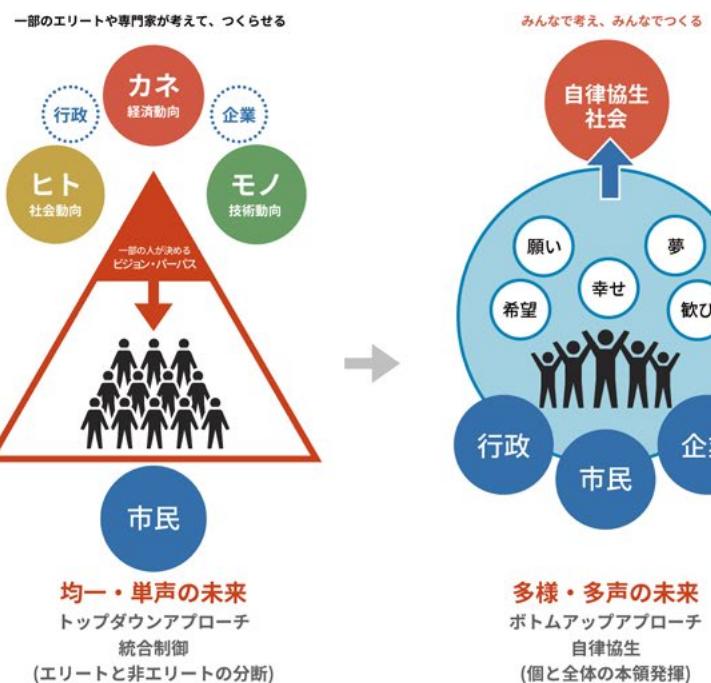
未来は誰が作るのか？

みんながつくる、主体的な未来に向けて。自律協生社会の始まり

未来は、誰がつくるのでしょうか？国のエリートや学者やコンサルタント達の言うことを鵜呑みにしてもうまく行かないことは、この国の全国的な衰退を見れば明らかです。町長や役場のビジョンやリーダーシップは重要ですが、そこに任せていても望ましい未来はやってきません。少数の人が考える未来は、どうしたって「均一・単声の未来」になるからです。

これから必要になるのは、町民一人ひとりの持つ願いや夢や希望を互いに聞き合いながら、みんなで考え、みんなでつくることで実現する「多様・多声の未来」です。

それを私達は自律協生社会と呼んでいます。

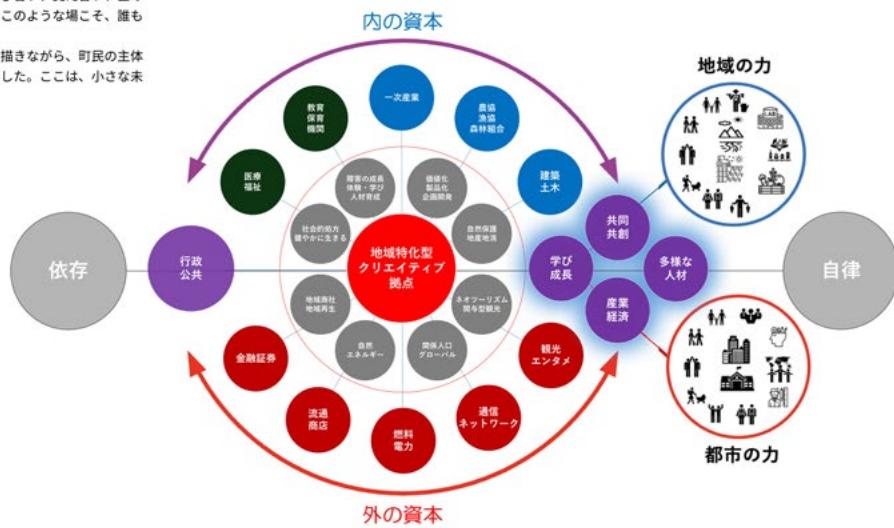


会場見取り図



自律協生を生み出す場づくりに向けて

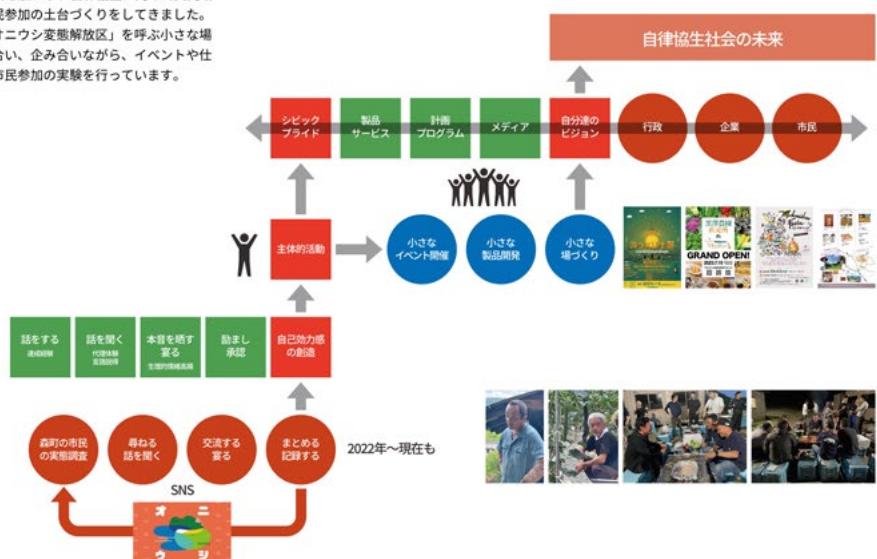
人口が減り、縮退するからこそ、一人ひとりが創造性を發揮し誰もが本領発揮できる自律協生の場が必要になります。立場や役割を超え、一人ひとりが主体的に参加・関与できる場が必要です。それは何か明確な機能や役割を持った場でなく、楽しみながら「社交・交流」し、「自分の役を説いて」、他者との「身体的な共鳴」が起こる場が重要になります。それは、飲食・芸能を楽しみながら、学び合い・支え合い・企み合う場。皆でつくり、発信する場です。このような場こそ、誰もが本領発揮できる場です。この展覧会の会場は、そのような思いを描きながら、町民の主体的な思いを引き出しつつ、出来上がりました。ここは、小さな未来の場所なのです。



森町 武蔵野美術大学 日本総研

森町での武蔵野美術大学と日本総研の活動：市民参加のプロセス

武蔵野美術大学は、森町に学生が滞在して演習を行う2ヶ月間のプログラム「産学連携プログラム」を2021年に開始しました。この演習を通じて森町に未来を感じた学生達はその後も関わり続け、既に3人の卒業生が森町に就業しています。2022年11月からは日本総研も加わり、自律協生に向けた共同研究を開始。毎月通う中で市民参加の土台づくりをしてきました。森町で知り合った方々と「オニウシ変態解説区」を呼ぶ小さな場をつくり、学び合い・支え合い・企み合いながら、イベントや仕事など小さな実践をつくる市民参加の実験を行っています。



森町 武蔵野美術大学 日本総研

自律協生を生み出す場づくりに向けて

森町の歴史

この地域には縄文時代前期（8千年前-）から続縄文時代（2000年前-）、擦文時代（1200年前-）を経て、アイヌ時代（800年前-150年前）までの遺跡が残っています。太古からずっと人が住み続けた場所であることが、この地域の住みやすさと豊かさを物語っています。

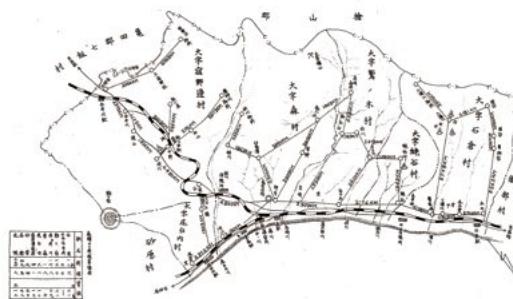
1500年代には和人はこの地域に入り始めました。天文元年（1532年）頃には、津軽の権四郎が漁師を率いて砂原地区に出稼ぎにやってきた記録が残っています。和人は漁期だけの仮住でしたが、次第に定住が始まり、天龟2年（1571年）には砂原村の呼称が生まれています。

の手が上されています。慶長六年（1601年）、上磯の漁師、千歳未吉が鷺ノ木に定住を始めます。寛文元年（1661年）には鷺ノ木村となります。その後、尾白内は元和元年（1615年）、姥谷は享保13年（1728年）、

石倉は寛永元年（1748年）に定住が始まります。森の定住は、天明2年（1782年）です。内陸の宿野辺は更に遅く、寛政11年（1799年）頃、木材業を営む和人によって定住が始まりました。寛政4年（1792年）には鷺ノ木村が砂原村から独立し、安政5年（1858年）に、幕府に正式に鷺ノ木村として認められます。同年、鷺ノ木村の支村だった尾白内・森が鷺ノ木村から独立して、鷺ノ木、尾白内、森、姥谷、石倉、宿野辺の6村体制となりました。明治35年（1902年）、この6村が合併して森村となり、大正10年（1921年）に森町となります。

一方の砂原村は、明治39年（1906年）に砂原村と掛潤村が合併して砂原村となった後、昭和45年（1970年）に砂原町となりました。

そして、平成17（2005年）年4月、森町と砂原町が合併し、新しい森町がスタートしました。

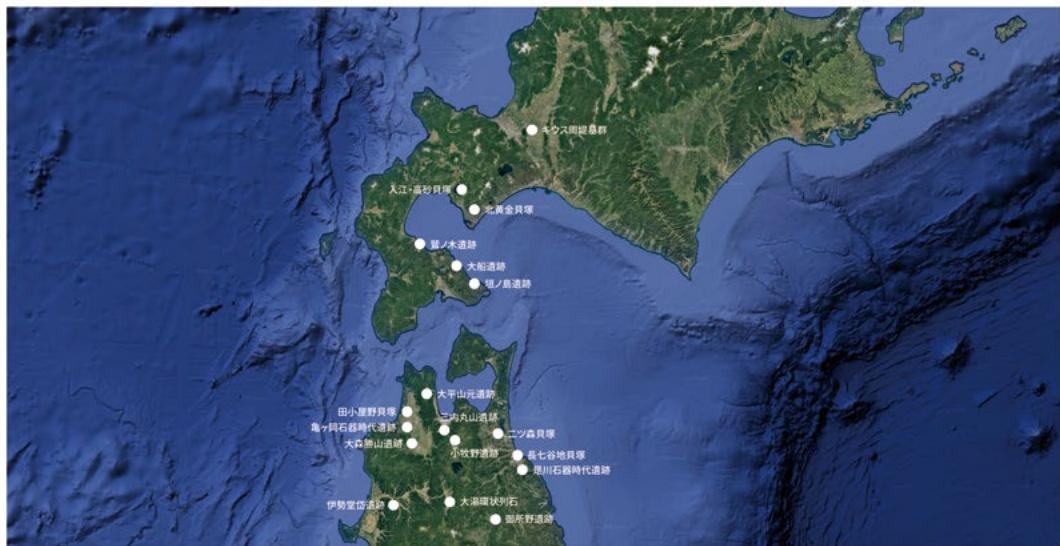


出典：森町図書館

日本語

森町は縄文時代、最も栄えた場所でした

縄文遺跡の分布から、縄文時代、森町は北海道の中で最も人口密度の高い場所であったと推測されています。青森から道南にまたがる縄文文化圏において交通の要衝だったこと、豊かな森と海の資源に恵まれていたことが背景にあると考えられています。

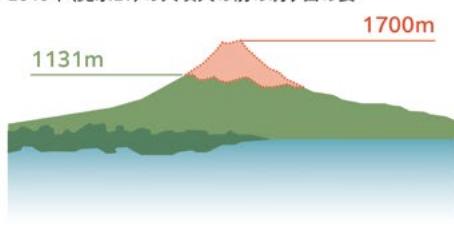


出所：高田和徳「世界遺産候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」を支える人々」を元に作成

森町 武藏野美術大学 日本料理

森町の豊かさの秘密:火山

1640年(寛永17)の大噴火の前の駒ヶ岳の姿



1640年噴火の山体崩壊による堆積物(岩屑なだれ)の分布



出所：「北海道の活火山」勝井義雄、岡田弘、中川光弘（北海道新聞社、2007）

駒ヶ岳は約4万年前に成層火山を形成。直近の1万年間では、約6800年前(縄文時代)に6000年ぶりに活動を再開し、500年間で4回の爆発的噴火をしました。

300 年間で 4 回の発生の歴史をじめた。その後は再び休止期間に入り、江戸時代に活動を再開。1640 年の大噴火では山体崩壊を起こし、標高 1700m あったと推定される成層火山が、ほほ今の形になりました。大沼・小沼の湖沼群はこの時に生まれています。また、岩窟なだれにより津波が起ころ、沿岸部では 700 名以上が亡くなりました。

津波が起り、沿岸部では700石以上が亡くなりました。
1929年にも大噴火が起り、降灰や土石流によって農業や生活は大きな影響を受けました。

火山は大きな災厄をもたらしますが、同時に、地中深くに眠っていたミネラルを大地や海に供給して、生態系を豊かにします。火山の周りには縄文時代の遺跡が多く見られますが、そのことからも火山の周りは自然の恵みに満ちた、とても暮らしやすい場所となることがわかります。

駒ヶ岳の西北西 20 キロの位置には、1 万 2000 年前の火山活動により誕生した濁川カルデラが存在します。濁川カルデラには温泉があり、地熱発電と地熱を利用したハウス栽培が行われています。地熱もまた火山の恵みです。

森町の歴史

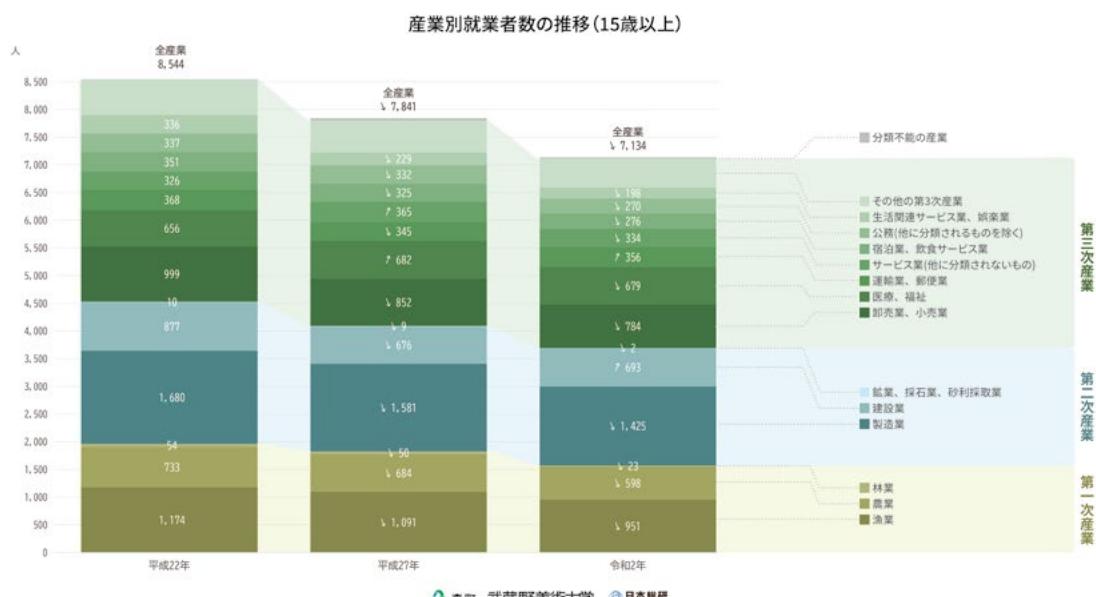
寒流と暖流の両方が流れ込む噴火湾（内浦湾）は、そもそも良質な漁場。そこに噴火によるミネラル供給と複雑な海底地形の形成が重なって、森町周辺は屈指の漁場となりました。

噴火湾と海流の流れ



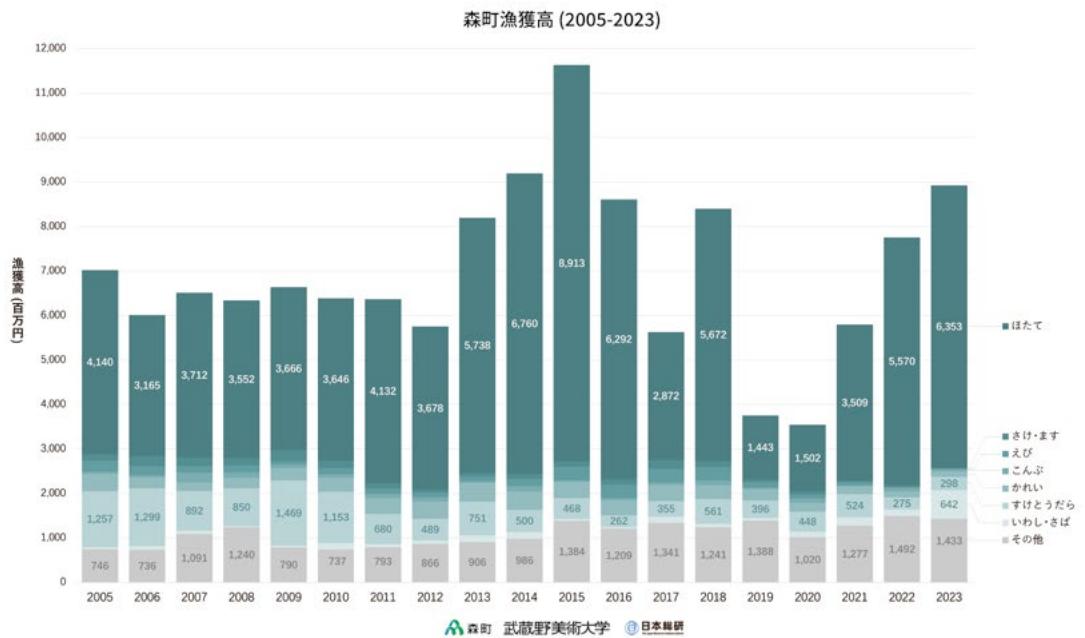
森町の産業： 産業別就業人口の推移

大分類では第三次産業の就業人口が一番多いですが、業種別で見ると製造業（第二次産業）が多くなっています。製造業のうち、9割は食品加工業です。大正9年に森町で日本初の冷凍食品事業を始めたニチレイフーズの工場が操業を続けているほか、魚介類を加工する食品工場が多数存在します。森町の代名詞であるイカめしの製造も行われています。食品加工業の次に就業人口が多いのは漁業で、漁業・水産加工業が森町の基幹産業となっていることがわかります。



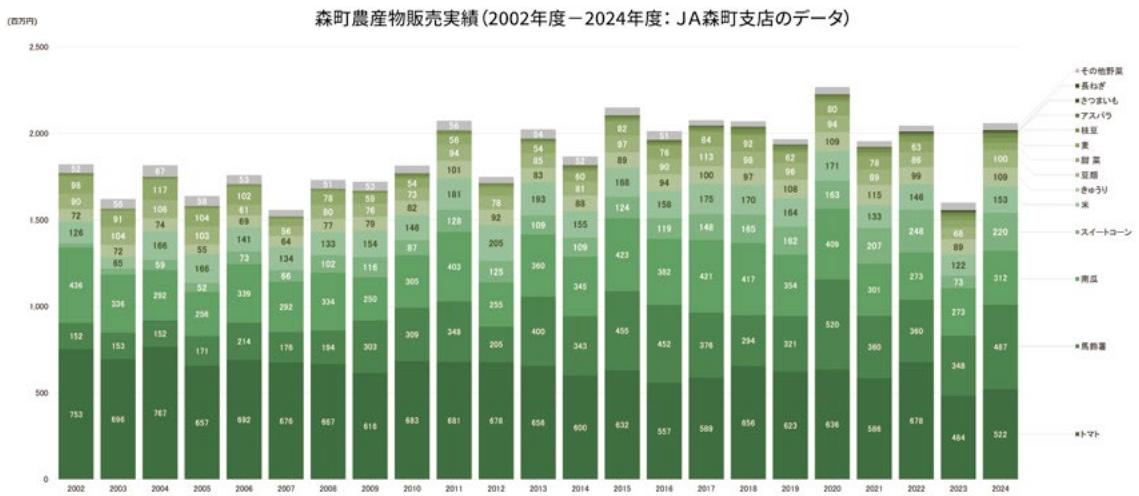
森町の産業：漁獲高の推移

食品加工業と並んで森町の経済を支えてきた漁業の一番の稼ぎ柱は、ほたてです（2023年では漁獲高の7割以上を、ほたてが占めています）。ほたての次の柱であった、すけとうだらがかつてほどは獲れなくなっている一方で、近年は、これまで獲れなかつたいわし・さばの漁獲が増えています。



森町の産業：農産物の販売実績の推移

農産物では、トマト、馬鈴薯、カボチャが強く、この三つで、JAが販売する農産物の6割以上を占めています。トマトは濁川の地熱・温泉熱を生かして栽培されるハウストマトが人気で、JAの中でも最大の売上を誇ります。また、駒ヶ岳の噴火に起因する火山灰土壌はカボチャの生育に適しており、森町は道内でも有数のカボチャの産地となっています。森町のカボチャは糖度が高いことで知られます。



森町の産業：畜産物の販売実績の推移

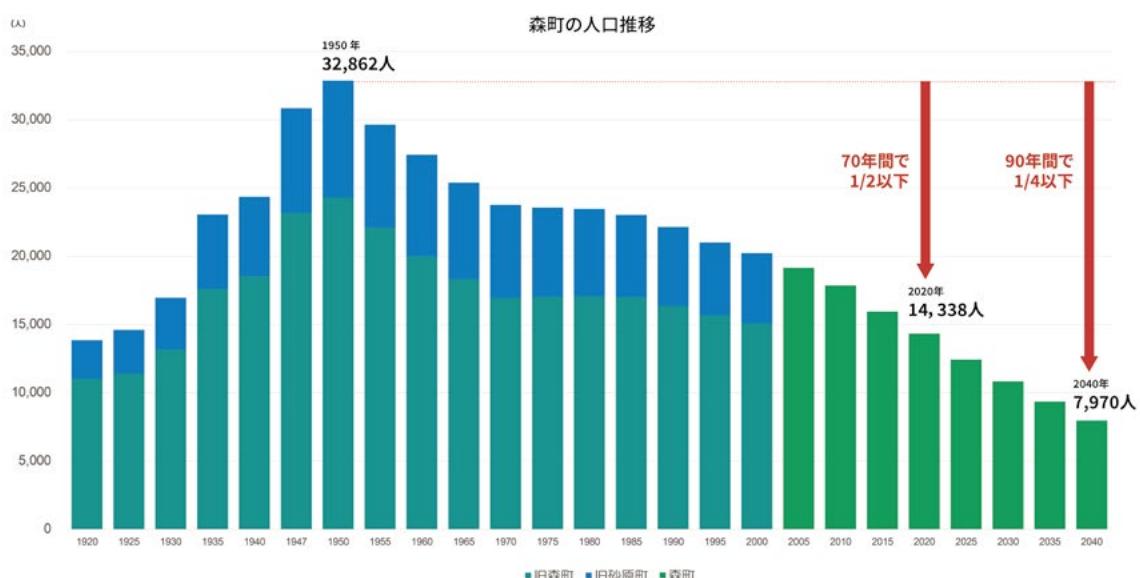
森町の畜産業では豚が強いです。JA以外にもクリーンファーム（日本ハムの子会社）や道南アグロ（ひこま豚）などの強い事業者がおり、豚の飼育頭数は道内一となっています。徹底したコントロール下で飼育を行うSPF豚（特定病原体不在豚）を「ひこま豚」のブランドで販売する道南アグロは、直営レストランを展開するなど、六次化に力を入れています。



森町 武蔵野美術大学 日本総研

森町の人口動態

旧砂原町と合わせた森町の人口のピークは1950年。国の人口減少を50年以上先取りしています。



森町 武蔵野美術大学 日本総研

100 人スケッチ

100 の視点の未来から町の未来を描く

夢というほど明確なものでなくとも、「こうなったら良いな」「こうなれたら素敵だな」という漠然とした理想や希望が一人ひとりにはあります。それを知るために、「10年後にこんなふうになっていたら良いなと思う自分の未来」を町民の皆さんに描いてもらいました。絵にすることで、自分の理想や希望を具体的かつシンプルに思い描くことができるのではないかと考えたからです。

目指した人数は100人だったので、題して「100人スケッチ」。世代も性別も職業も違う森町の100人にスケッチを描いてもらいました。そして、その100人のスケッチから、何が浮かび上がってくるか。それを分析してみたのです。

この展覧会では、100人に描いてもらったスケッチの原画と、100枚のスケッチを分析する中から見えてきたものを発表しています。







- 「みんなの森町展」で展示したパネルの内容 -



- 「みんなの森町展」で展示したパネルの内容 -







-「みんなの森町展」で展示したパネルの内容 -





-「みんなの森町展」で展示したパネルの内容 -

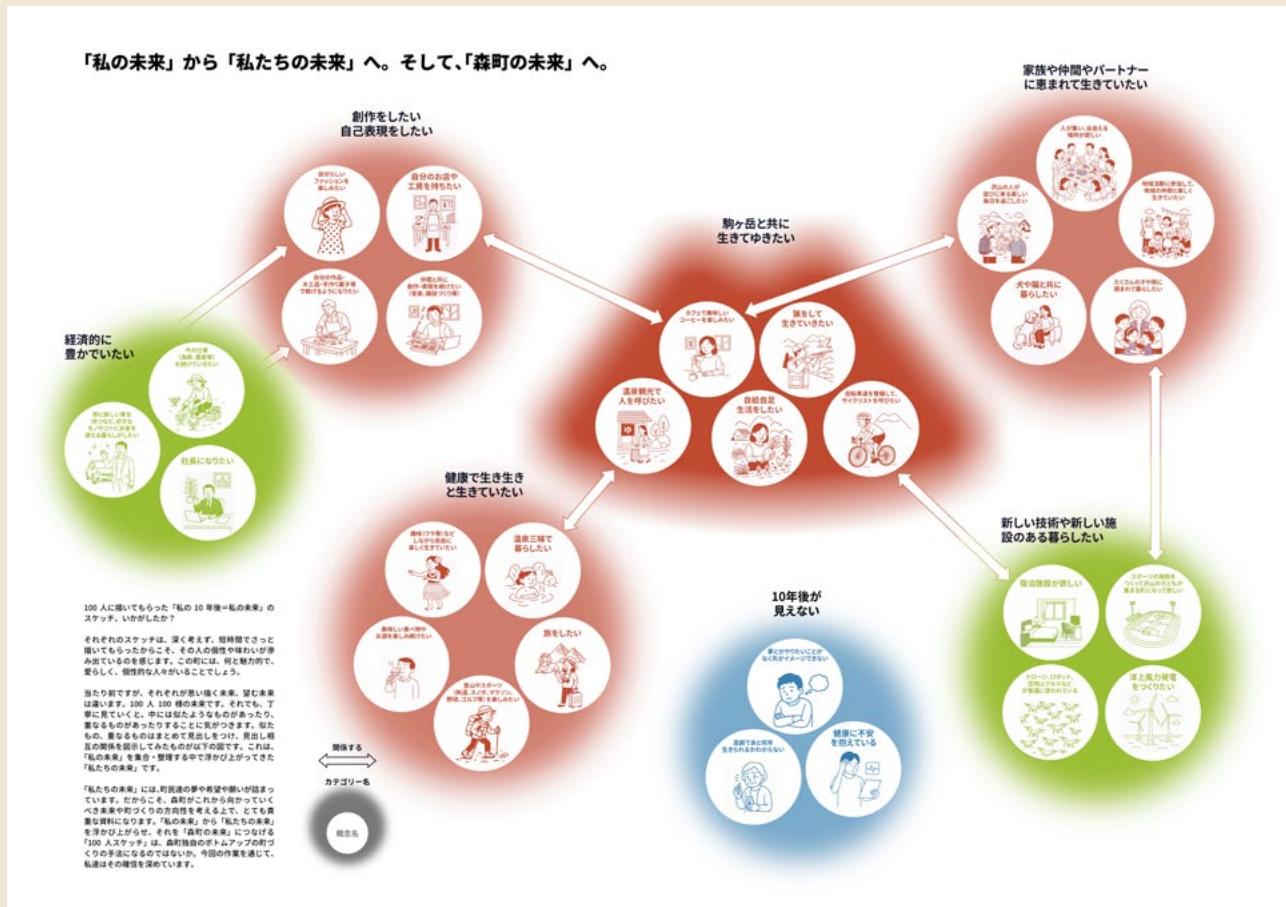


-「みんなの森町展」で展示したパネルの内容 -



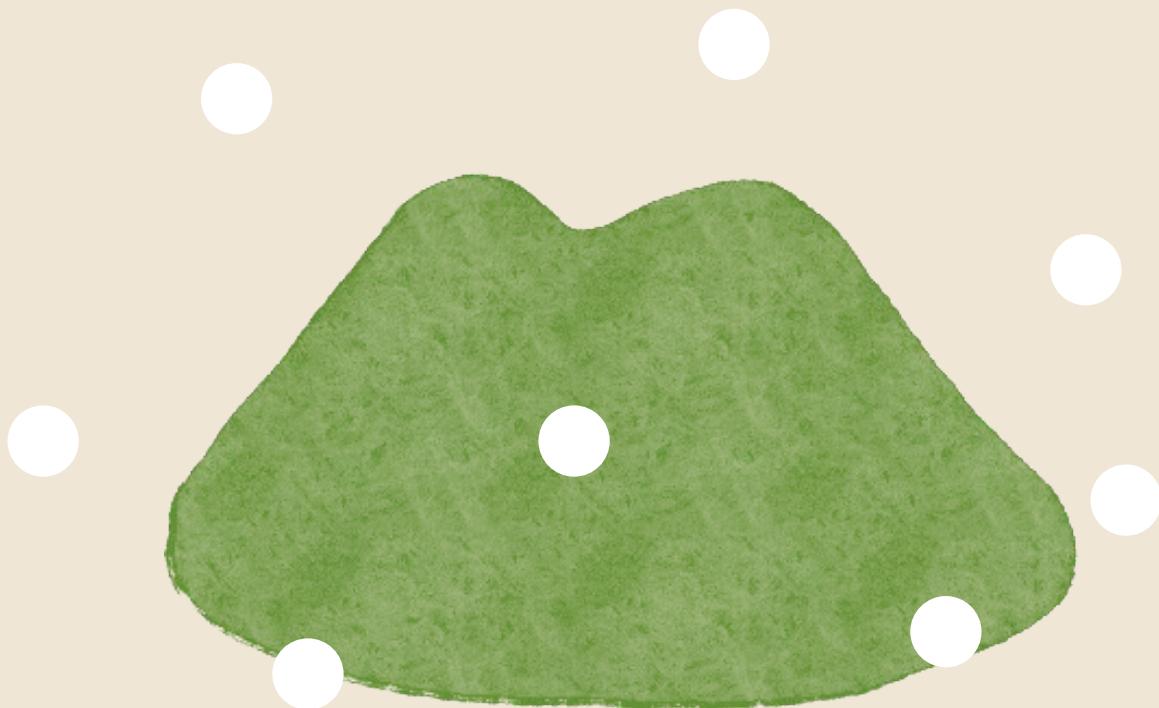
「私の未来」から「私たちの未来」へ。そして、「森町の未来」へ。

家族や仲間やパートナー
に恵まれて生きていきたい



もりまち百景

2025年度作品集



森中学校・砂原中学校の2年生による
フォトオブザベーション（写真観察・表現・対話）
を活用した森町の魅力探求活動の記録

もりまち百景 2025 年度 作品集

発行：令和 7 年 8 月 30 日

主催：北海道森町

共催：武蔵野美術大学、株式会社日本総合研究所

参加スタッフ

- ・ワークショップ講師

若杉 浩一 (武蔵野美術大学)

井上 岳一 (株式会社日本総合研究所)

原田 泰 (株式会社デザインコンパス)

小川 航輝 (森町地域おこし協力隊)

春澤 栄 (森町地域おこし協力隊)

松浦 侑生 (森町地域おこし協力隊)

- ・ポスター監修

譚 林宣 (株式会社日本総合研究所)

- ・ポスター制作

陳 哲弘

任 宇恒

阮 麗瀅

劉 丁源

担当の先生方からのメッセージ

生徒たちの表現には驚くほどの豊かさがあり、大人では気づかないような新鮮な視点や発見が多く見られました。ワークショップを繰り返す中で、そうした気づきや感じたことを自分の言葉で表現する力も次第に高まっていきました。最初はうまく言葉にできなかった生徒も、回を重ねるごとに自信を持って発言できるようになり、互いの意見に耳を傾けながら新たな視点を得る姿が印象的でした。

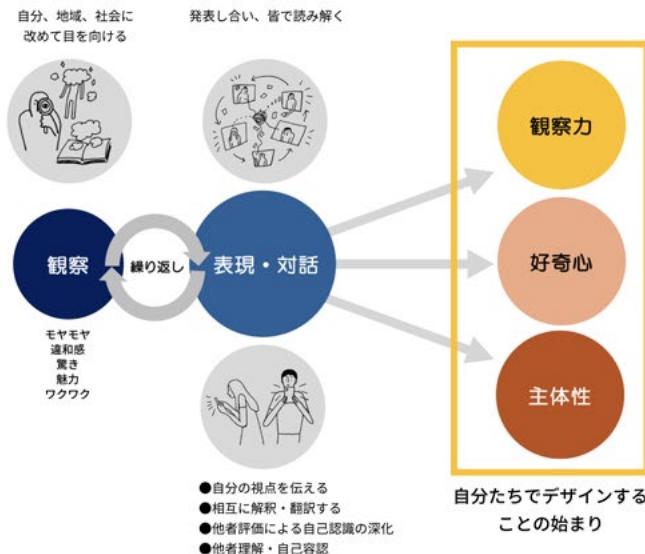
こうした経験を通して、表現力だけでなく、考える力や他者との関わり方についても成長が見られ、とても貴重な学びとなりました。

森中学校 教諭 塩俵 綾香

最初は「何を撮ればいいのか分からない」「うまく言葉にできない」と戸惑っていた生徒たちも、フォトオブザベーションの授業を重ねるうちに、少しづつ変化していきました。身近な風景や物の中に自分だけの視点を見つけ、写真に込めた思いを言葉で表現する力が育ってきています。写真を通して「感じる」ことの大切さを知り、言葉にすることで自分の考えを整理し、他者と共有する喜びも味わっています。表現することに自信をもち始めた生徒たちの姿に、学びの深まりと成長を感じます。

砂原中学校 校長 田中 登

もりまち百景： フォト・オブザベーションを通じた「デザインの始まり」の体感



フォト・オブザベーションは、まちや、身の回りを観察し、関心や興味を持ったものを写真に撮ることから始まります。撮った写真にはタイトルと説明書きをついた上で、他者と共有し、解説や感想、アイデアを交わします。

自分が観察したものを写真と言葉で表現し、他者と対話する。この観察・表現・対話というプロセスを繰り返す中で、自分の興味や関心のありかを深く掘り下げる言語化するようになります。他者の視点の共有は他者理解を助け、他者による評価やフィードバックが、自己理解・自己容認・自己肯定感を育てます。さらに、地域には見過ごしていた宝が沢山あること、観察力や好奇心、見立て次第で、目の前の現実はいかようにでも面白くなり得るのだということにも気づかされます。その気づきが主体性を育てます。そして、この主体性からデザインは始まります。自分達の地域を主体的にデザインする意欲や力を持つ人が育てば、地域の力が育ちます。誰でも参加でき、誰もがデザインの始まりを体感できるフォト・オブザベーションは、地域を主体的にデザインする人を育てる根源的な芸術行為なのです。

今回、このフォト・オブザベーションを森町の中学生2年生（約100人）に体験して頂きました。百人だから「もりまち百景」。4回の授業を通じて、百人の眼差しと表現はどんどん進化してゆきました。今年は試行的な取組みでしたが、これを続けていけば、森町を主体的にデザインする人がきっと育っていくはずだと確信しました。

森町 武蔵野美術大学 日本総研

フォト・オブザベーション・ワークショップのプロセス



森町 武蔵野美術大学 日本総研



森中学校

不思議な空

いつも見る空は青色なのに夕方になっていくと空の色が変わっていく。



もりまち百景

青山 柚来



石黒 美月



時が止まった世界

ゲームをやっていたら隣の部屋から綺麗なオレンジ色の夕日が見えたので兄の部屋に行くと綺麗な夕日が部屋に広がっていました、あまりにも綺麗だったのでさらにより綺麗に見える角度から撮った最高の一枚です。

そしてちょっぴり写っている時計が時が止まったかのように見える感じを出していてとてもいい雰囲気をただよわせています。こんなに綺麗な夕日を見てしまったら時間なんて忘れてしまいます…もう一度言いますがそんな最高の一枚です。

 もりまち百景

岩谷 陸翔



エアコンの巣

重なってあみあみになっているのが蜂の巣みたいで面白いと思いました。実際はエアコンの中のあみですが、なんか周りに囲われて穴が空いていると言ったら蜂の巣だなって思って蜂の巣にしました。でも蜂の巣は六角形でこの写真は四角形だからタイトルを四角い蜂の巣にしました。何重も重なっているのも蜂の巣みたいで少しリアルだなって思いました。この中から蜂が出てきたら面白いしひっくりするなって感じました。

もりまち百景

上平 栄希

森の通り道

自分はいつも遅刻しそうになる時に
かならず視界に入ってる通り道です。



岡嶋 隼士



金澤 そら



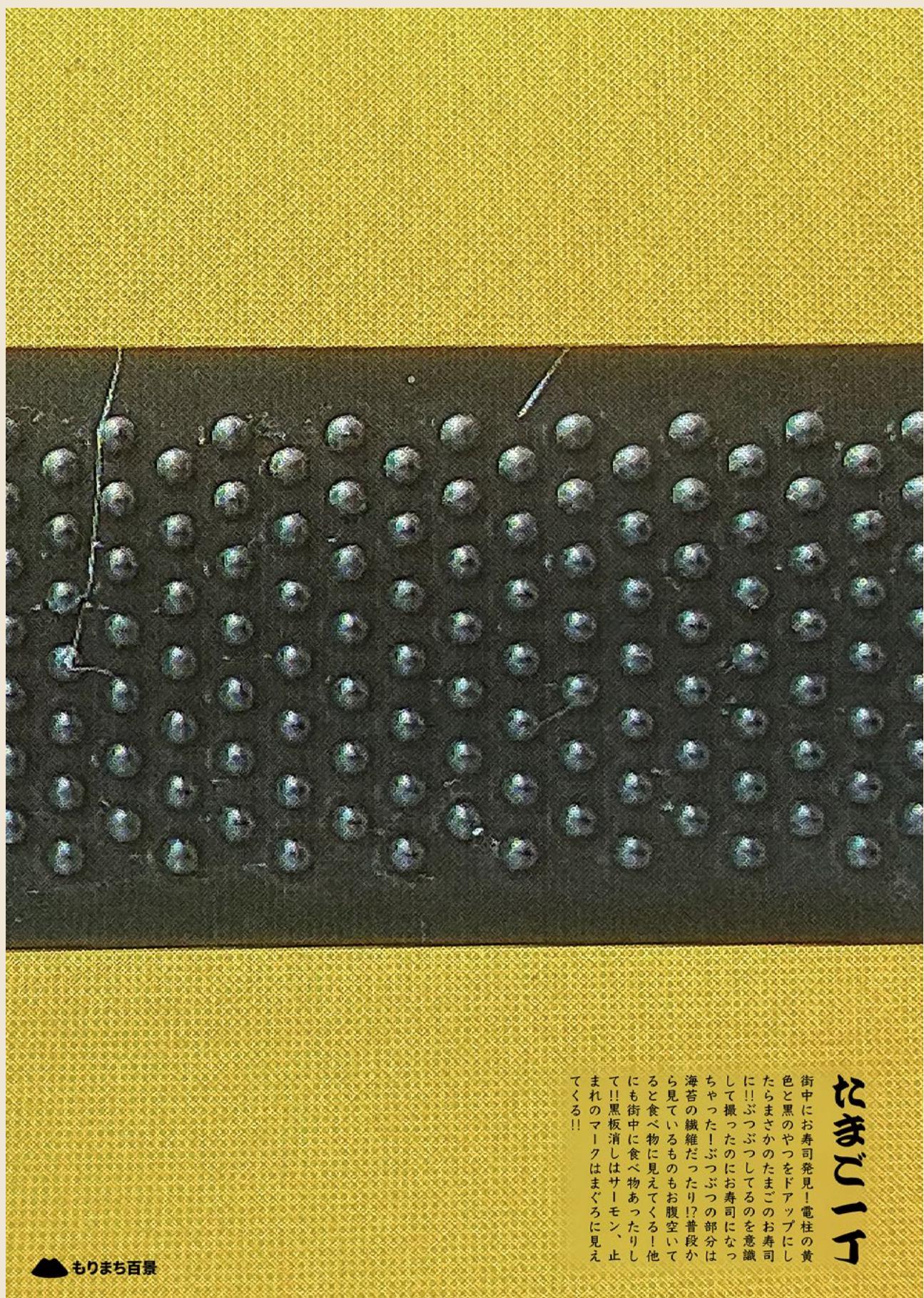
惑星

*カメラに惑わされた

直視したら普通の街灯だが、写真を撮ることによってきれいな丸い形に変化し、私は月に見えた。見え方によっては土星に見えたよりもした。空の色が宇宙を表しているように思える。地面は緑の芝生で地球を表しているように見えた。写真を撮ることによっていろいろなものが見えた。

もりまち百景

金谷 茜音



たまご一丁

街中にお寿司発見！電柱の黄色と黒のやつをドアップにしたらまさかのたまごのお寿司に!!ぶつぶつしてたのを意識して撮ったのにお寿司になっちゃった！ぶつぶつの部分は海苔の繊維だったり!?普段から見ているものもお腹空いてると食べ物に見えてくる！他にも街中に食べ物あたりして!!黒板消しはサーソン、止まれのマークはまぐろに見えてくる!!

もりまち百景

川端 あかり

初めてのおつかい

この写真は友達と遊んでいる時に撮ったものです。この写真を撮った場所は海の近くです。本来蛇は山にいるものですがこの時には海にいました。何か海に用事でもあったのかと思い少し観察していると、まるで買い物をしにきたかのように家具屋さんに向かって進み始めました。もしかして海に来た理由は、「初めてのお買い物をするために来た？」だとか「家具の装飾に蛇がいてその蛇が変身して森町を観光して帰って行った?」だとか、この辺からさまざまな想像が膨らみました！また、このことから森町は海と山のそばにある、自然豊かな町だと思いました。今年は巳年！こんなところで蛇を見たし…何がいいことでもあるといいなぁ！



久保田 乃愛

なぜこの色？

黒板は漢字に黒って書いてあるのに見た目はなぜ緑色なののはなぜだろう。それに黒板の元々の色はなんだったんだろう。それにどうやって色をつけたんだろう。

(解説)

黒板が緑色の理由は視認性が高く目に優しい色だから、黒板の元の色は黒色らしい。だからチョークは白色、色のつけ方は塗料を使っているらしい。

もりまち百景

黒滝 呼来

コンクリートの中の大地

コンクリートの中に草が生えていて小さなジ
ヤングルがあつて岩のところは山地があつて
右側が砂漠があるようにある。周りに海がな
いので陸の孤島に閉じ込められている。

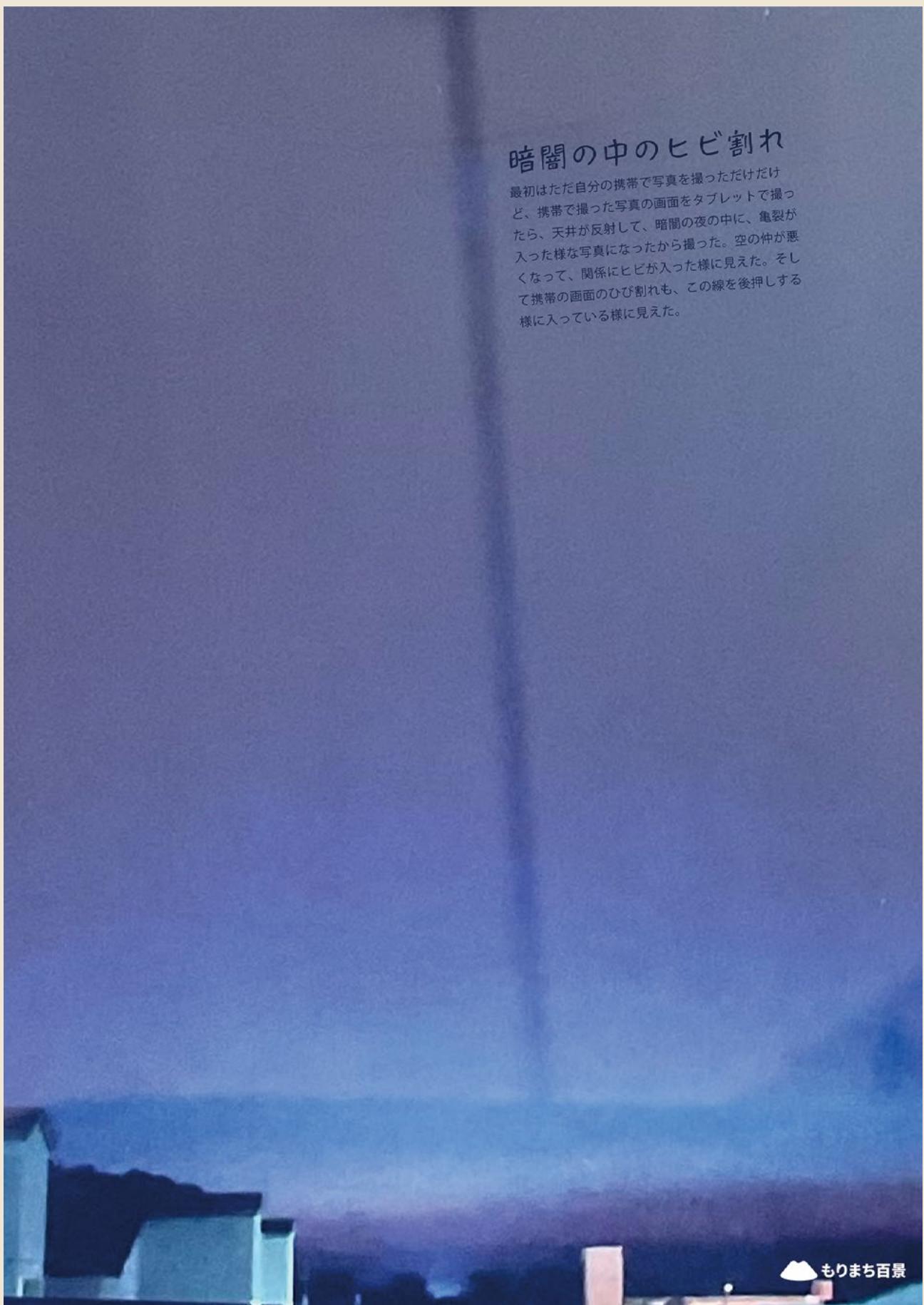
もりまち百景

小池 羽琥



暗闇の中のヒビ割れ

最初はただ自分の携帯で写真を撮っただけだけど、携帯で撮った写真の画面をタブレットで撮つたら、天井が反射して、暗闇の夜の中に、亀裂が入った様な写真になったから撮った。空の仲が悪くなって、関係にヒビが入った様に見えた。そして携帯の画面のひび割れも、この線を後押しする様に入っている様に見えた。



小杉 妃彩

ゴジラみたいな何か

何か目みたいなのがあるのと
そして背中のようなどろがふ光があって
そこがゴジラの背びれのような感じで、そこがゴジラに見えたからです

 もりまち百景

櫻田 詠士



夜間警備員

アシナガアリの働き蟻です。

夜遅くまで巣穴の入り口を守っていた姿が警備員に見えました。

セキュリティが高そうです。

もりまち百景

佐藤 光陽



森中ランウェイ

なぜか森中の玄関の外にある水道を柱に合わせて縦から撮ってみようと思、

撮ってみるとよくモデルさんや俳優さん、女優さんなどの有名人が歩くランウェイのように見えました。

なぜかと言うと下が石でツルツルしているところや柱の辺りから人が出てくるように見えたからです。

もしこれが本物のランウェイなら僕の好きな俳優の木村拓哉さんやSnowmanの目黒蓮さんに歩いて欲しいです。

ですが幅が20センチくらいしかないので凄くバランスが必要なのでもし歩くならとても危ないです。実際に歩いてみたいなと思います(笑)

もりまち百景

佐藤 龍生



上に上がつて
る木の枝が
裏返つた傘
みたいだと思つて
逆さの傘で
「さかさ」にしました。

さかさ

塩谷 悠良



野原の螢

この写真はたんぽぽがたくさん咲いているだけに見えるけど、見方を変えると螢がたくさんいるように見えました。

虫は夜に出てくるイメージだったけ、どこの写真は昼なのに虫がいるみたいでおもしろいです。

高田 愛夢



高山 連



千葉 心子

ここに一つしか無い

開花当時は、綺麗だったけど日光をたくさん浴びて上が萎れている。長年咲いていてもう年寄りになったから。老けているけどまだ長生きしたい桜。



もりまち百景

中澤 駿



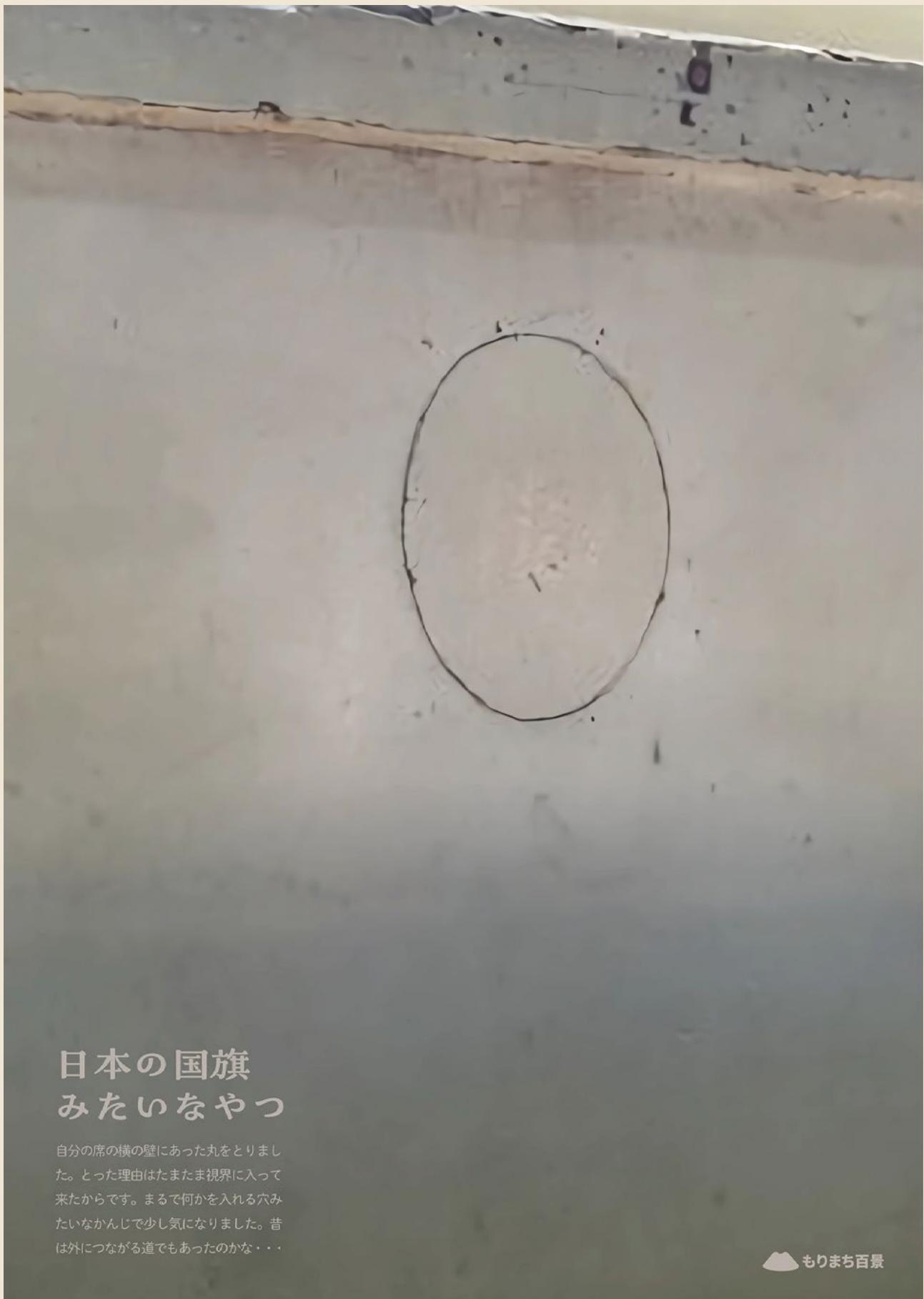
元気に 花を 咲かせます！

この桜の木は一体何年間生きているのでしょうか。私には分かりません。ですが、この木の幹がとても曲がっていることから、私はお年寄りのようだと思いました。人間は歳をとるにつれて腰が曲がっていくという姿と、この木の姿が重なって面白いなと思いました。この状態だと木に負担がかかりそうなのに、それでも生きていられること、そして桜を咲かせられることから、桜の木の生命力の高さを感じ、感動しました。これからも長く生きて綺麗な桜を咲かせてほしいです。



もりまち百景

長畠 冴



日本の国旗 みたいなやつ

自分の席の横の壁にあった丸をとりました。とった理由はたまたま視界に入って来たからです。まるで何かを入れる穴みたいなかんじで少し気になりました。昔は外につながる道でもあったのかな・・・

 もりまち百景

中村 龍聖

カメラの中の社

遠近感を利用して鳥居を大きくみせたり、下から撮ったりしているので、肉眼では見ることのできない迫力が出ています。また、逆光になっているので、鳥居や奥に写っている松が実際に見るよりも黒っぽくなっています。以上のことから、この題名にしました。私は鳥居から太陽が見えているのが、神秘的で綺麗なので気に入っています。



もりまち百景

成田 百加

しゃべる日の丸

教室のスピーカーを見た時「日の丸」に見えたのでこの写真を撮りました。毎日聞き流していた放送の装置がいきなり国家の象徴に変わりました。毎日見慣れたものでも見方次第で違ったものに見えるのがとても面白いです。



もりまち百景

西村 佑都



小人の雨宿り

これは自宅の庭にあるブルーベリーの苗が花を咲かせている状態です。この写真を撮った理由は、小人が冒険をしていて突然の雨に驚いて白い花のなかに駆け込んで静かに雨宿りしていると思ったからです。

丹羽 峻己

蜜の味

タイトルの意味は、花がたくさんある中で蝶がいろんな場所を冒險して蝶がとまっているこの花が目当てで冒險したんじゃないかと思ってこのタイトルにしました。写真を撮った意味は少年団に行く前にこの道を通ったら、たまたま蝶がいて近づいても全然逃げなくて花の蜜を吸うのに集中しているんだなと思って逃げないうちに写真を撮りました。



もりまち百景

花田 莉緒菜

階段の怪談

この写真は、自分の家の階段を上から撮りました。

この階段を見ると、小さい時に階段から落ちたことを思い出します(笑)。

撮った理由は、朝や昼は怖くないのに、夜になると雰囲気が変わって不気味で、階段の隙間から手が出てきそうなところが怖いと思ったからです。

また、階段を上から撮っているのに、目の錯覚で下から撮っているように見えるので、この写真を選びました。

 もりまち百景

藤野 茶子

三人町一等星

中央にある太陽が夜に見える一等星のように見えたことから、この作品名を「一等星」と名づけました。この作品は遠近法によって、落ちていく太陽がとても目立つように撮りました。しさと明るさを備えた綺麗な写真で、私のお気に入りです。それと、この写真は友達と陸上の終わりに撮ったもので、とても思い出があります。また友達と夕日を見たいです。



 もりまち百景

本間 愛音

卵の中身

この写真は家で双眼鏡をのぞいて外を見ていたところ、電塔が目に入りました。双眼鏡越しにカメラで撮つてみると面白い画になりそうだと思い撮影しました。周囲が丸く縁取られて卵のように見えたので、タイトルは「卵の中身」としました。



もりまち百景

三浦 蓮飛



侵略者

とても可愛いはずが、撮るアングルを変えることによって侵略者のような雰囲気が出ている。それに、亀特有の爪の尖り方などが、さらに侵略者や怪物の感じを強くしている。目には何が映っているのだろうか…

もりまち百景

水嶋 莉雅



光の整列

森町民体育館の床の写真を撮って、見返してみると天井の光が床に反射して、光が整列しているように見えた。

 もりまち百景

三好 凜太郎

ひつじの おにごっこ

雲のふわふわしている様子から、何匹ものひつじが集まっているように見えたので「ひつじのおにごっこ」という題名にしました。

写真の下の方はグレーになっていて、グレー色のひつじにも見え、2種類のひつじに見えます。そして、グレーのひつじが白色のひつじを追いかけているように見え、空へ向かって走っていくよう見えて、一つの物語のような様子になります。

違う色

同じ色でも明るさや暗さが違うだけで違った色にも見える、ここはセブンイレブンで撮りました。写真で見ると絵の具で描いたようにも見えます。

空の換毛期

雲がひつじの毛みたいだと思って撮りました。ひつじみたいな雲だからひつじ雲だと思ったら、この雲の名前はうろこ雲らしいです。

うろこ雲は低気圧や前線が近づいている時に現れやすく、天気が下り坂になるサインとも言われているらしいです。

また、うろこ雲がでてから3日以内に雨が降るという言い伝えがありますが、必ずしも翌日に雨が降るわけではありません。

うろこ雲だから換毛期ではないけれど、うろこよりひつじの毛の方が綺麗だと思ったので「空の換毛期」にしました。

うろこ雲の見られる確率は7~8割と意外と高いのですが、やはり綺麗なので見られて嬉しいです。



相澤 心優



小さな家

蜂の巣は普通、大勢で作る
けど、この蜂の巣は蜂が1匹
で作っていて、時間がかかる
ているように見える。
この蜂の巣はどんな材料で
できているのか気になった
ので、写真を撮った。

もりまち百景

青山 航大

色が違う木

窓の外を見たら、色の違う木があつて不思議に思ったから撮った。
でも、他の木を見ても色が違う木がなかった。



もりまち百景

東 翔祐





はんぺん

教室や廊下など、いろいろな場所の天井についている。

見た目は「はんぺん」のような形をしているが、どんな役割を果たしているのだろうか。

もりまち百景

東谷 虎太郎

教頭先生の夜食

教頭先生がウサギを見つけて、「今日の俺の晩ご飯だ」と言っていて面白かったので撮りました。

それに、グラウンドにウサギがいるのが不思議で撮りました。足が長くて、走るのがとても速かったです。

教頭先生が夜にこっそり食べる、という意味でも面白いので「夜食」にしました。



もりまち百景



阿部 咲月

ばなな

最初、自分で撮った時は水滴しか見ていなかったけど、みんなの前で発表したら「葉っぱが熟す前のバナナみたい」と言われたので、タイトルを「ばなな」にしました。
そんなことを言われると思わなかったので、びっくりしました。自分ではそんなふうに思わなかったからです。
自分では思わないことばかり言われてびっくりしたので、この写真にしました。



もりまち百景

市谷 愛夏

カレー・パンマンのバケツ

小さい頃にパン・マンを見ている時、カレー・パンマンがみんなにカレーを渡していたのを見て、おばあちゃんが散歩している時に写真的の電柱についているバケツがカレー・バケツに見えていつもこのバケツの中にカレーが入っていると思っていました。小さい頃の思考は不思議だなと思いました。実際は柱上変圧器といって電圧を変えるための設備です。



誰も使っていない井戸

もりまち百景

いつも帰り道にある、誰も使っていない井戸。夏になると草が大量に生えて、井戸自体が見えなくなる。この井戸も、昔は誰かの生活の役に立っていたと思うと、すごく不思議な気持ちになる。夜にもたまに通るが、この井戸を見るたびに、この井戸の中からサダコが出てきそうで、とても怖い。一回でもいいから、井戸の中を見てみたいものだ。



大森 陽



モアイ像

森の資料館で撮った土偶の顔がモアイ像に似ているのに、土偶の顔と名付けられていることが気になったから調べてみました。土偶は顔が小さく目が丸いのと鼻が低いことから、土偶と名付けられることが多いみたいです。モアイ像は額が大きく鼻が高く、目が窪んでいることからモアイ像と名付けられるようです。ついでに、モアイ像と土偶の顔の作られた目的も調べてみました。モアイ像はイースター島の先住民であるラバ・ヌイ族が祖先の靈を祀るために作りました。土偶は日本の縄文時代の人々によって、豊穰祈願、病気平癒、出産のお守りなどを目的として作られたものみたいです。僕は、見た目が似ても意味が全然違うことに、より興味が湧きました。

落合 拓



旅するこいし
と仲間たち

こいしたちが旅をしているように見えたので、その様子を写真に撮りました。
小石たちが雨宿りをしている様子に見えたり、ロボットのような柱に話しかけているようにも見えて、小石が本当に意思を持っているように動き出すストーリーを想像できる面白い一枚だと思いました。

 もりまち百景

金澤 蓮花

いらっしゃいます

猫の写真を撮つたら、招き猫のような写真
が撮れました。一見かわいい猫の写真です
が、怪しい世界に巻き込まれそうな感じが
します。



もりまち百景

菊地 銀次朗



時期になると自分が通る通学路に沢山生えている白い花。
たけどある程度育つと気づいたら他の雑草と共に刈られ
ている白い花。ある程度育つて刈られた後なのでこの写真
を撮った時にはこの花は一輪しか生えていなかった。
正直なんという花なのかも気にならないが、やっぱり綺麗
なので刈られてどんどん枯れていき茶色くなっているこの
はなを見るのは少し心苦しい。

もりまち百景

木村 希空

なかまはずれ

この写真には見えないけど、写真の右側に砂浜があって、
海の波が友達同士で手を繋いでるみたいなのに、
写真に写ってる所だけ石で仲間外れにされているみたいに見えました。
普通砂浜には砂があるのに石だけでなんでここだけ石しかないんだろうと思いました。
海につながってる川があるからそこから石が沢山流れてきてるのかと思いました。



久保田 乃愛



スパイダーマンを探せ

下を向いて歩いてたら目がついてる葉っぱと目が合いました。こんな草もあるんだなーと思って周りの草も見てみたらみんな目がついてて全員と目が合いました。しかも目付きの草がこの部分しかなくて面白くてみんなに見せたら、スパイダーマンみたい！とかウォーリーを探せスパイダーマン版と盛り上がりって確かに思つたので、スパイダーマンを探せになりました。他にも顔がついてるのかもしれない。

もりまち百景

齋藤 ひな子



雑草魂！

お店で買ったりした植物はしっかり手入れしないと
すぐ枯れてしまうっていうイメージが僕はあるけど
自然の花や草などの植物は手入れしているものもある
けどされていないものでも長い期間咲き続けて
雑草はとても厄介ですがそういう雑草こそ生命力
がすごくさすが「雑草魂！」と、ふと外を見た時思つ
て自然の生命力はすごいなと思って撮った。

もりまち百景

酒井 瑞佑



猫缶

三匹の猫です。かわいいと思いました。

子猫が 3 匹いてなんでこんなに固まって
るんだろうなって思った。

もりまち百景

佐々木 翔海

初めてみた地面

いつも家の前にあるマンホールがたまたま目に入ったので詳しく見てみると森町の絵が書いてあって珍しいと思って撮りました。ただタイトルにある通り僕はとても珍しいと思っていたのですが、みんなに紹介してみると大して珍しくもなく、どこにでもあると言われてしまいました。13年森町に住んできて一度も見たことがなかったので、いまだにどこにでもあるということが信じられません。



もりまち百景

佐藤 翰夏

歩道のわさび畑

歩いてたら、よく見るあみあみに草が生えて珍しくて撮った。なんでそんなところに集中して草があって、枯れないで元気に生きるんだろうと思った。そのびよこびよこはみ出てるところが、わさびに見えたし、左側が所々変色しているのが生命を感じた。



もりまち百景

白石 ひかる

双子の花

おばあちゃんがたまたまくれたお花が双子だった。最初は不気味で怖いなど思っていたけど、見ているうちになんか不気味だけど頑張って生きている花なんだなと思えた。そう考えてるうちに考え方方が変わって綺麗な花だなと思った。ちなみにもう枯れている。少しこの花のことを調べてみた、名前はガーベラという、花言葉は「燃えるような愛情」「神秘」「チャレンジ」「常に前進」らしいです、生息地は熱帯、亜熱帯地域に広く分布している。



もりまち百景

進藤 瑛斗



空を見上げたら わたあめが

家でボケーっとしてたらふと空を見たら羊雲らしきものがあつてきれいだなと思ったので撮りました。羊雲は秋に見られる雲なのに夏に見られるのは不思議だなと思った。雲の形がわたあめみたいでそれが雲に無限に浮いているからその題名にした。羊雲を見ていて本当にわたあめが食べたいと思いました。完璧な羊雲ではないけれどこの方がなんか夏らしいなと思いました。今度は本物の羊雲を見てみたいと思いました。

 もりまち百景

鈴木 健

自然が刻む歳月

いつも通る家の周り、そこをよくみてみると大きな変わった形の岩があったその岩をよくみると岩肌にはたくさんの線や穴があり、見た目もゴツゴツしていた、調べてみると雨で石が削れることがわかった。普段すごく硬くてほとんど削れているところをあまり見たことがないけどこんなに硬い岩が長い時間をかけて雨でこんなに削れるのは不思議だと思った。普段あまり見ない家の周りの色々なところをよく見てみるとたくさんの不思議な形の岩など、色々なものがあってすごく面白いと思った。



もりまち百景

其田 卓也



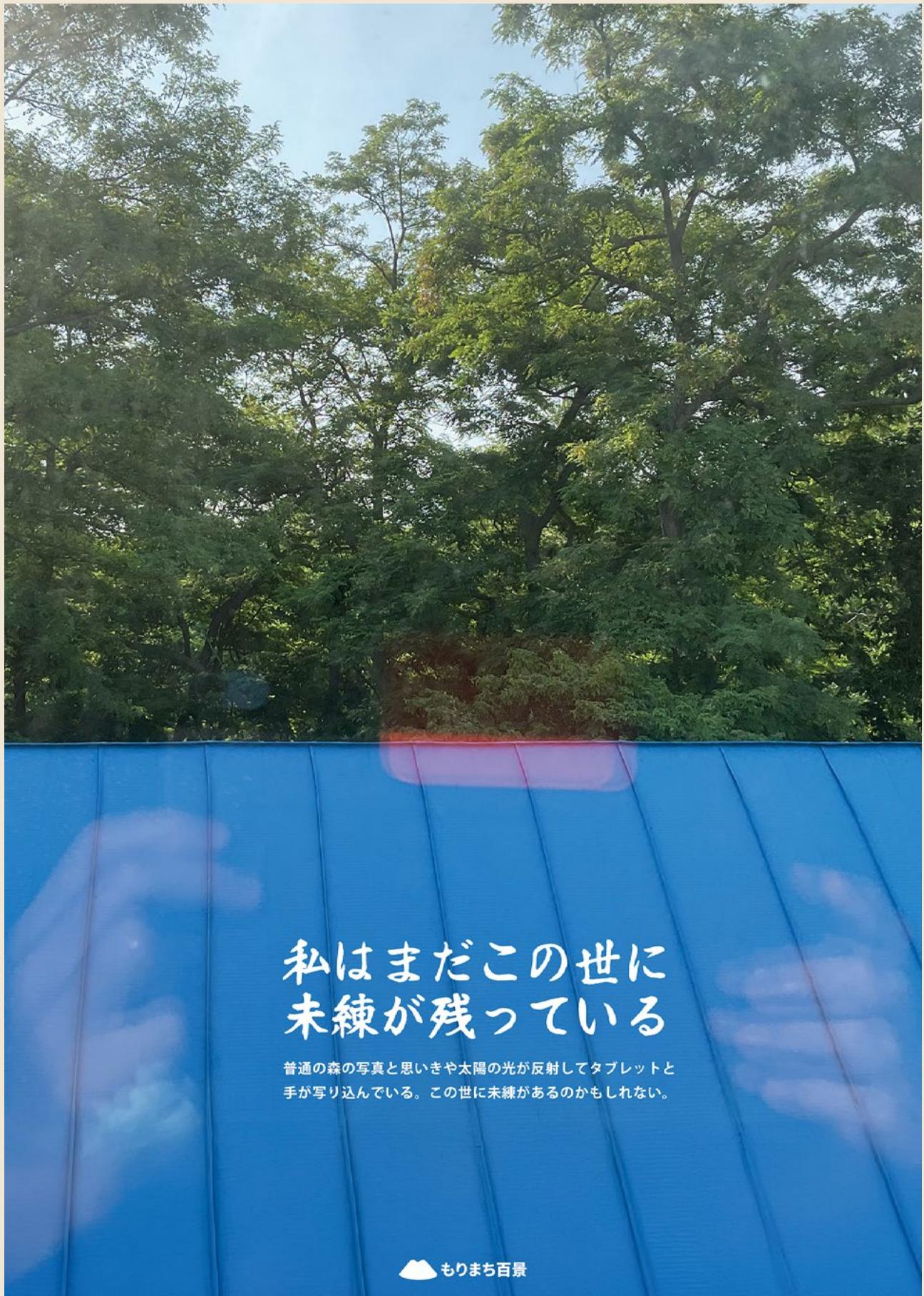
高 夏音

火の玉ストレートの化石

棒を横から撮つたら、棒がまがっていて、野球の火の玉ストレートの軌道みたいな感じになりました。パイプなので、ただ横から撮つただけなのに、奥行きがあっていい感じになったのがすごいと思いました。ただの棒なのにいろんなアイデアが思いつくのが面白いと思いました。次は変化球の軌道を探してみたいです。（カーブとかスライダーとか）



高野 映志



田中脩斗



田中 麗



謎の敵と会敵！

九〇式戦車のトミカと丁度いいぐるみがあったので今にも開戦しそうな睨み合いさせました。しっかり砲塔は360°回転できるので某ネズミさんに向けました。ちなみに初トミカでしたがプレミアムだったので1400円くらいしましたが精巧だし砲塔や砲身、履帯も動くしディティールも細かいので後悔はしません。背景は汚かったので毛布を被せただけです。ゲームと戦車の見過ぎでどこを撃ったら撃破するんだろう、と考えてしまい末期だなあ、と自覚しました。こうしてみると相当カオスな現場になりましたが写真越しだと九〇式戦車の履帯って可愛いなーと思いました。SFのように設置したのがこだわりです！SF映画でよくみる光景を作りたいなーと思い作りました。自分が乗ってる気分で撮ったので楽しかったし軍歌を歌いながら撮りました！

もりまち百景

西川 莉胡

24時間労働

時計の針は人間で考えたら 24 時間 365 日不眠不休で働いてるし疲れて動けなくなっても一瞬で疲れを取るし、ソーラー電池の時計は永遠に不眠不休で働かされるからとんでもないブラック企業だと思った。こうやって考えると時計を作った人はどういう気持ちで作ろうと思って作り始めたのかのかと思って人の心はあるのかなと思った。

「6」のところは、心臓が丸出しになってるから地獄だと思った。



もりまち百景

長谷川 稔

謎の視線

この写真を撮った理由は猫が目線でご飯が欲しいと問いかけているように思ったからです。この10分後にご飯だったので気づいていたんじゃないかなと思いました。後もう一つ鼻の横にはくろがあるからです。この写真を撮った時に気づきました。



もりまち百景

羽立 悠



平井 音緒

怒ってる顔

不思議な写真を探してゐる時にゴミ箱が怒ってる顔に見えて写真を撮りました。ちょうど目と口の位置にあってすごいし、どうやってできたのか不思議です。ゴミ箱にちゃんとゴミ捨てない人がいるから怒ってるのかと思いました。いつどこでどうやって汚れがついたのか気になる。ちゃんとゴミを捨てないとこのゴミ箱に呪われちゃうからちゃんとゴミを捨てる人が増えて欲しい。

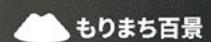


 もりまち百景

蒔田 優心

人生詰んだ

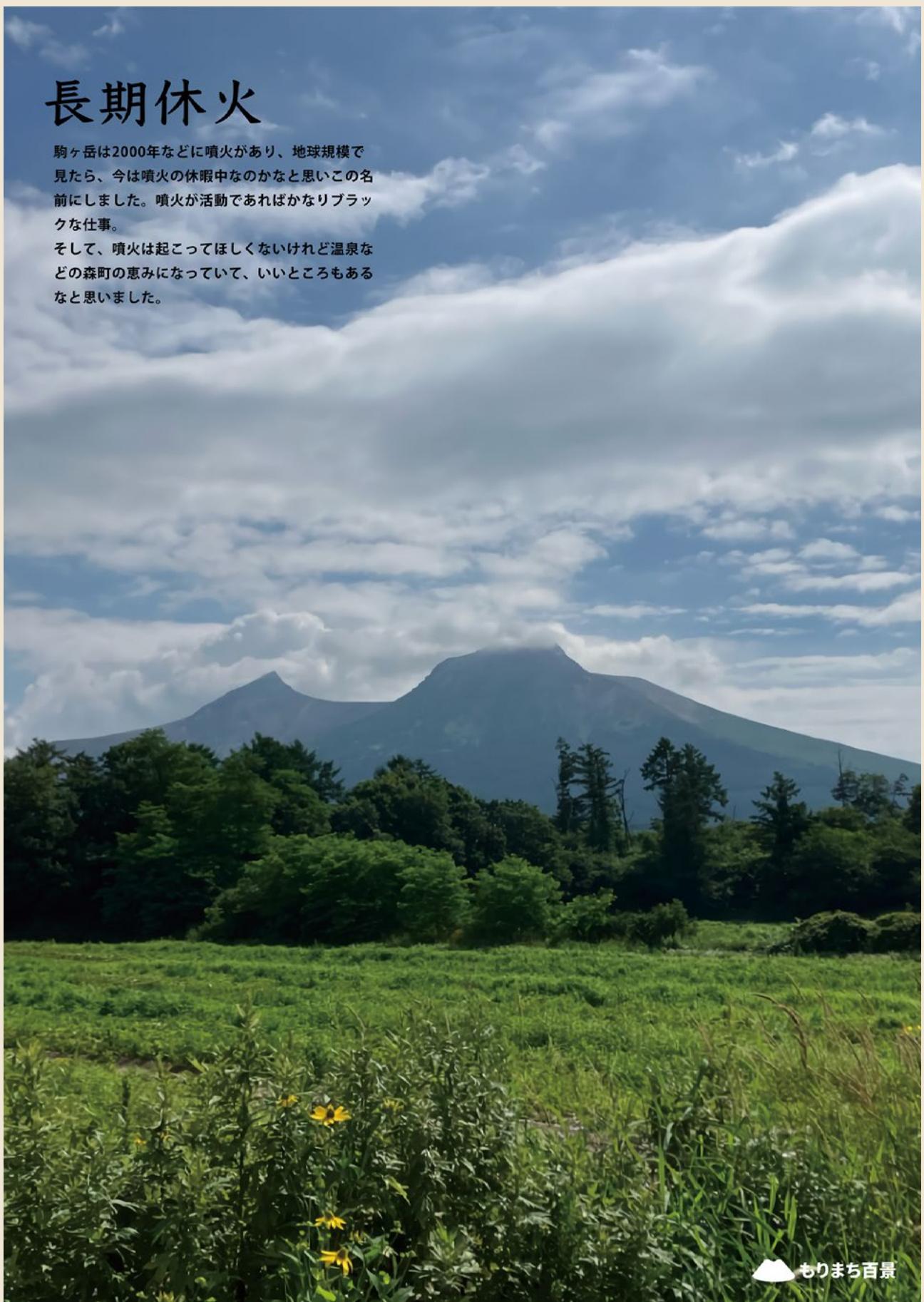
朝起きたらここにいた人が言いそうなことタイトルにしてみました。みなさんはもし朝起きたらこの空間だったらどうしますか？私だったら諦めます。ちなみにこのモヤの正体はタブレットです。



宮腰 皓早

長期休火

駒ヶ岳は2000年などに噴火があり、地球規模で見たら、今は噴火の休暇中なのかなと思いつこの名前にしました。噴火が活動であればかなりブラックな仕事。そして、噴火は起こってほしくないけれど温泉などの森町の恵みになっていて、いいところもあるなと思いました。



 もりまち百景

山根 真琴

この木気になる

みゆき公園にある一本だけ大きい木。周りのやつは普通の大きさなのになぜ一本だけ大きいのか不思議に思いました。周りの木は、小さいけど一つだけ大きいから昔から誰かが植えてそれが今も残っているのかなと思いました。



もりまち百景

吉田 悠伊



追加された壁

1階にある廊下の壁。何故か右側の壁が重なっている。壁に穴が開いたのか壊れたのかわかりませんがそれで新しい壁を重ねたと自分はそう思う。あとこの壁以外にいろんな場所に壁が重なっているらしい。ここに隠し扉ありそう。隠し扉があったら学校の秘密のやつとかありそう。

 もりまち百景

金澤 春斗



A型が気になるアンテナ

ある日ある日、、私は掃除が終わり絵を描いていました、、その時！！！！私は見てしまったのです！！一個だけずれているアンテナを！！！私は心の中で激昂しました。何故一個だけずれているのか、、誰がどのような経緯でこれをズラしたのか、、私も一A型としてとても気になったのですが、ですが私の母「A型」は「気にならなくない？」と言ってました。何故一個ずれているだけなのに直したくなるのか、、例えば前ならえをしている時に1人だけずれていたら「もうちょっとまっすぐ並んで」と言いたくなりますよね？その情景とズレているアンテナが重なります。私はとても気になります。皆さんズレているアンテナがあったら直しますか？直しませんか？

もりまち百景

小坂 晓

砂原中学校



闇を照らす光

これは自分の家から見た港の方向です。船が何十艘も仕事するために光を出しています。みんなが寝静まっているこのとき漁師の人は、仕事をして生計を立てています。私たちがよく食べるホタテや魚を寝ている時にとて私たちに届けてくれます。

もりまち百景

荒木 和人

巨大な黒うんこ

巨人の学校で昼休み中サッカーをしていてうんこを我慢できず漏らしてしまった「わいーなんだばこれでっけーうんこあるでだーれよここさうんこ漏らしたやつ」「先生うんち漏れちゃった」と巨人が言っていた。そして保健室の先生に拭いてもらつた。



もりまち百景

荒木 好誠

やーっと帰ってきたー！

5日間も、戻ってきませんでした。砂原の町中で、何をしていたのかな？ゴロゴロしたり、草を食べたり日向ぼっこしたり、砂原の田舎暮らしを、楽しんできたのかな？5日も、戻ってこないから心配しました。夕方走って帰ってきたから、お腹空いてたのかな？顔が見れて安心しました。



荒谷 哉穂

私の家の春

私の家からはこんなに美しい景色が見えます。外を見たら美しい景色があったのでとりました。国道わきにある桜はとてもきれいです。夕焼けの空と駒ヶ岳が美しいです。夕焼け、駒ヶ岳、桜、とてもきれいです。砂原には他にも美しい景色が見えます。



もりまち百景

石田 彩羽

すぐに食べちゃいたい オレンジアイスクリーム

オレンジアイスクリームが溶ける前に食べたくなってきてしまった



岩井 琉悟



砂の城

ここに昔私が通っていた幼稚園があったんです。でも数年前
に古いから壊しちゃって今は何もないんですけどこの前久し
ぶりに見たら懐かしくて昔友達と砂場で遊んだり木登りした
記憶が遡って楽しかったなーと思い出しました。

もりまち百景

小川 結菜



砂原の空に浮かぶ

6月の満月はストロベリームーンという名前があります。ストロベリームーンだからピンクというわけではないですが、この写真を見るとピンクに見えてとても綺麗です。砂原はとても田舎で、灯りがあまりなく真っ暗です。だからか月の光がとても綺麗に見えます。都会では月以外の光が多くてこんなに綺麗に見えないでしょう。店とかは少ないけどこれが田舎のいいところだと私は思いました。

 もりまち百景

角 陽向

言い訳ストリート

私は小学校6年間火曜日と金曜日にくもんに通っていました。この2日間しか行かないで毎日宿題がありました。その宿題をくもんがある日に出さなきゃいけないんですけど、宿題をやらなかつた日は友達とくもんに行く途中に笑いながら言い訳を考えていました。それが思い出なのでフォトオオザベーションにしました。



もりまち百景

木村 朱花



もりまち百景

工藤 理久

カラスの鬼ごっこ

この写真は自分の部屋から撮った写真です。窓から空を見てみたらとても綺麗な夕焼けで、感動して撮りました。よく見るとカラスが3匹いて鬼ごっこしているようにみました。砂原は田舎で街灯が少なく夜になると真っ暗になるのですがその街灯がないおかげですごく綺麗に夕焼けが見えます。



もりまち百景

熊川 希望

おいらの作品

美術の時間の汗と努力と手垢がある作品、
この雑な感じが渋い。

渋すぎてうんち漏れちゃった



もりまち百景

坂本 偉政

海も空も太陽も、
私も夏に向かう

海と空の広さがわかっているなと思いました。
右側が少し暗くなっているのも夕方って感じで
いいと思いました。冬ならもう暗かった時間
だけど暑くなってきて真っ赤な夕日が見れて
季節の移り変わりを感じました。

もりまち百景

坂本 霽月



買い物を終えてお店から出ようとしたら、
オレンジ色の綺麗な光が見えました。
その光の方へ向かってみたら眩しい夕日
がありました。
淡い色の空と建物が影になっていて夕日
がさらに良く目立って見えました。

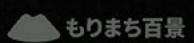
もりまち百景

坂本 菜乃



絶対いる道

昼間や朝は、全く怖くないのに夜中に見たら
幽霊がいそうと思って撮りました。



佐川 駿

雨や雲にも動じない、駒ヶ岳

砂原の良さが駒ヶ岳だと思うのは、

美しいからだと思います。

駒ヶ岳は美しくてなんか見ていると
落ち着くし安心感があるきがします。

なのでこの写真を撮りました。



佐藤 吏貢



畑を守って
くれている
スズメさん

私たちのクラスの畑の支柱をさ
していたところに、「この畑を
守ってやる」みたいな感じでス
ズメがやってきました。この一
週間ずっとスズメがちょく
ちょくやってきます。

佐藤 瑞奈

逆走 隕石

日がしずむくらいに撮った物です。隕石みたい
だけど逆だから逆走隕石。しずむというより登っ
ていきそう。やっぱ太陽もみんなに見て欲しいのかも
しれない。月なんて太陽のおかげで綺麗に見えるだけ。
いつまでも中心である存在でいたいよね。これは田舎の砂原じゃないと見
れないものだと思う。他の場所でどの角度からも
こんな美しいものなんて見れるはずがない。



もりまち百景

澤田 莉心

ハ力
綺
西鹿
な
海

おじいちゃんと砂浜で釣りして力
レイを釣つたり友達と釣りをして
楽しかったらしいこと夕陽が落ち
るところも見れて砂原の中で一番
いい思い出かなと 思います。
ぜひ行って見てください。



竹中 陽玖

ここでしか
見れない
山

これは中学校で撮った山で、もう砂原でしか見れない山です。後少しで噴火するらしいんですけど、見守っていきたいです。でもまだいつ噴火するのかわからないらしいので避難する準備もできそうです。それと、森林が広がっていて綺麗に見えてこの写真を撮って良かったです。



もりまち百景

丹羽 つばき

光と想いがつまつた 砂原限定風景

朝の太陽の位置とまだ少し暗い夜が混じって、駒ヶ岳が間にあってその位置関係がすごくいい。絵画のようすで素敵です！この朝焼けもとても綺麗で皆さんに一度見てもらいたいです。



もりまち百景

松村 香凜

自分だけの朝

これは自分の部屋から撮った6時くらいの朝の写真。

まだ少し涼しい朝を感じられる。

次にこの写真にはいないけどいつも静かなので、

すずめが泣いているのがよく聞こえる。

この2つが自分の朝を感じられる。



もりまち百景

三浦 嶽太

いつでも平和

住宅や展望台とか高い所から空などを見ると綺麗で今日も平和だなと思います。

夕方頃は、このような色の雲が流れています。

夜くらいは、雲があまりなくて、空の方少し明るい色をしています。

こんなに近い場所に平和を感じることができるのは、高い建物が少なく、どこからでも広々とした空を見ることができる砂原の良いところです。



もりまち百景

三好 莓花



楽しいブランコ

小学校のときいつも遊んで懐かしかったから。

もりまち百景

村上 雅



盛田 愛菜

不法侵入? 鹿ですけど何か?

鹿には何の法律も効かないんだなと感じた。



もりまち百景

山本 岳

**新町誕生20周年記念事業
共に描く森町のこれから
私の未来、私達の未来、森町の未来
事業実施報告書**

発行日：令和7年11月15日

発行：武蔵野美術大学

テキスト：井上岳一

デザイン：譚林宣

